令和7年第2回（定例会）吉備中央町議会会議録（3日目）

1. 令和7年6月13日 午前 9時30分 開議

2. 令和7年6月13日 午後 1時42分 閉議

3. 会議の区別 定例会

4. 会議の場所 吉備中央町議会議場

5. 出席議員

1番	日	名	由	香	2番	渡	邊	順	子
3番	我	妻	瑛	子	4番	高	森		学
5番	丸	山	節	夫	6番	河	上	真	智子
7番	平	澤	一	浩	8番	山	崎		誠
10番	片	岡	昭	彦	11番	黒	田	員	米
12番	西	山	宗	弘					

6. 欠席議員

9番 石 井 壽 富

7. 会議録署名議員

5番 丸 山 節 夫 6番 河 上 真 智 子

8. 議場に出席した議会事務局職員

議会事務局長 早 川 順 治 書 記 岩 崎 啓 子

9. 説明のため出席した者の職氏名

町 長	山 本 雅 則	副 町 長	岡 田 清
教 育 長	石 井 孝 典	会 計 管 理 者	大 森 初 恵
総 務 課 長	山 本 敦 志	税 務 課 長	石 伊 利 光
企 画 課 長	大 樫 隆 志	協 働 推 進 課 長	大 月 道 広
住 民 課 長	宮 田 慎 治	福 祉 課 長	古 林 直 樹
子 育 て 推 進 課 長	片 山 和 子	農 林 課 長	石 坂 晃 則
建 設 課 長	大 月 豊	水 道 課 長	檜 寄 秀 徳
教 委 事 務 局 長	中 山 仁	加 茂 川 総 合 事 務 所 長	岡 崎 直 樹

10. 議事日程

日程第1

会議録署名議員の指名について

日程第2 一般質問

日程第3 報告第6号 陳情審査報告について

日程第4 報告第7号 陳情審査報告について

1 1. 会議に付した議案の題目及びその結果

一般質問

報告第6号 陳情審査報告について 採択

報告第7号 陳情審査報告について 採択

午前 9時30分 開 議

○議長（西山宗弘君）

おはようございます。

一般質問の2日目でございます。

ただいまの出席議員は11名です。9番、石井壽富君が所用のため欠席です。塚田保健課長、荒谷定住促進課長が所用により欠席ですので、お知らせをいたします。

会議中の撮影許可を先日までに報告したものに加え、西日本放送に許可をしておりますので、報告をいたします。

定足数に達していますので、これより直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、あらかじめお手元に配付したとおりです。

~~~~~

○議長（西山宗弘君）

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。本日の会議録署名議員は、会議規則第127条の規定により、議長において、5番、丸山節夫君、6番、河上真智子君を指名します。

~~~~~

○議長（西山宗弘君）

日程第2、一般質問を行います。

質問時間は、一括質問、一問一答質問、いずれも30分以内とします。残り時間は、3分前にベルを鳴らしてお知らせをいたします。なお、一括質問につきましては、再々質問までとなっています。

質問の通告がありますので、順次発言を許します。

10番、片岡昭彦君。

○10番（片岡昭彦君）

10番、片岡昭彦です。議長の許可をいただきましたので、一般質問をさせていただきます。

質問方式は、一括方式で行います。今回は、吉備中央町の公共交通について、2点のことを山本町長にお伺いをしたいと思っております。

まず、1点目の質問として、町内を運行している町営交通（岡山医療センター便、へそ8バス、デマンドタクシー、ふれあいタクシー、福祉タクシー）について。

将来の公共交通の課題を民間バス事業とともに公共交通をどのような形で取り組んでいくのか、町長の考えをお尋ねいたします。

次に、2点目の質問として、町営バスの運転手あるいは公共交通事業者において、運転手の確保は雇用の面において大変苦慮している現状であります。こうした状況を解決するため、人材確保における二種免許取得補助による支援ができないでしょうか。

現在、町内には中鉄バス及び備北バスの民間路線バスが運行されています。それとは別に、町営交通による町民の足の確保として、へそ8バスが令和3年から、岡山医療センター便が令和元年から、デマンドタクシーが平成23年から始まり、町内全域での利用は令和3年から、そしてふれあいタクシーは平成17年からと、それぞれの公共交通機関として町民の移動手段として運行を行なっています。へそ8バスにおいては、実証運行として2年間の運行を行い、その後、幾度と期間延長による利用調査を行う形で実証運行を継続し、来春には結果を出さないといけないところであります。

吉備中央町においても、他の自治体同様、少子・高齢化、過疎化が進む中、本町が掲げる大きな課題として公共交通、買物環境、医療環境など身近な生活に直結した問題が山積しています。買物環境や医療環境については、事業者の考え方もあり、なかなか町だけで解決できないものがありますが、公共交通に関しては町が主体性を持つことで対応は可能ではないかと考えます。

吉備中央町総合計画の中には、町民の高齢化に伴い、自動車などの移動手段を持たない高齢者が増えており、地域での交流機会や通院、買物等に安心して安全に移動できる手段を確保することが必要と明記されています。そうした中、今後の取組方針としてふれあいタクシー、デマンドタクシー等の各タクシー事業の効果を検証し、利便性の向上を図ります、町内の主要施設や岡山市など近隣市町へはタクシー事業と路線バスを組み合わせることにより、高校生の通学、高齢者の移動、観光客の利用といったニーズに対応した交通体系を構築しますとも書かれております。

そうしたことを踏まえ、それぞれの公共交通を免許返納者をはじめとした交通弱者の本格的な足と捉え、町民に寄り添っていくのであれば、今後におけるそれぞれの運用方針をどのようにお考えでしょうか。また、限られた財政の中、全ての公共交通について拡充を推進していかれるのか、町長のお考えを教えてくださいと思います。

そして、2点目の質問として、交通事業を運営するに当たり、バスやタクシーなどの旅客自動車を旅客運送のため運転しようとする場合には第二種免許が必要と定められていま

す。しかしながら、第一種免許取得者は多くおられますが、第二種免許取得者はそう多くいないのが現状であります。特に60歳以下に限って言えば、どこの事業者からも引く手あまたの状態では人材不足は顕著であり、事業者における従業員の確保は大変苦慮している状態です。また、昨今の働き方改革により労働時間が制限される中、事業を拡大したくても人手不足でできない、そういった状況を克服するためにも、大型及び普通第二種免許取得補助による公共交通事業者や取得希望者への支援ができないでしょうか。御答弁のほどよろしくお願いいたします。

○議長（西山宗弘君）

答弁を許します。

山本町長。

○町長（山本雅則君）

それでは、片岡議員の吉備中央町の公共交通についての御質問にお答えをいたします。

まず、議員が御指摘のとおり、人口減少や高齢化、運転手不足といった課題は、将来の公共交通の持続可能性に大変深刻な影響を及ぼすというふうに私も認識をしております。こうした中で、公共交通を地域の移動の基盤として守り、育てていくためには、行政だけではなく、地域、住民、そして民間事業者との連携というものが必要になってくると思います。実施した公共交通アンケートデータをしっかりと生かしながら、需要に応じた柔軟な運行形態や医療、買物、観光などと連携をいたしましたモビリティサービスの展開についても、住民ニーズをしっかりと分析をした上で、民間事業者との対話を重ねながら持続可能な公共交通を今後も模索をしていきたいと思っております。

ただ、このような中山間地域、公共交通の脆弱な場所につきましては、しっかりと費用対効果というものを考えるのは重要でございます。ただ、コストがかかるからやらないというような地域では、私はないと思っております。コストがかかってもやらなければいけない交通というのはあります。その辺をしっかりと検討しながら、今後も住民サービスのため、また自治体としての体をなす公共交通はどのようなものかというのを押さえながら進めていきたいと思っております。

なお、二種免許等の補助につきましては、この後、総務課長のほうから答弁をいたします。

○議長（西山宗弘君）

山本総務課長。

○総務課長（山本敦志君）

議員御提案の二種免許取得補助についてでございますが、現在、公共交通を担う運転手の確保は地域交通の維持にとって喫緊の課題というふうになっております。特にバスやタクシー業界では、高齢化の影響により深刻な人手不足が続いており、将来的な路線の維持や運行本数の確保にも大きな影響を与えております。こうした状況を踏まえ、交通事業者や地域の声を伺いながら地域交通の持続可能性を高めることを目的といたしまして、二種免許の取得に対する補助制度について今後導入を検討してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（西山宗弘君）

10番、片岡昭彦君。

○10番（片岡昭彦君）

御答弁ありがとうございました。山本町長からの首長としての吉備中央町におけるこれからの公共交通の在り方、取組方のお考えをお聞かせいただき、ありがとうございました。

そうしたことを踏まえまして、再質問をさせていただきます。

タクシー事業は、デマンドタクシーとふれあいタクシー、利用形態は少し異なりますが、福祉タクシーとそれぞれの目的に応じたタクシー事業がありますが、利用条件などそれぞれ異なるものであります。しかしながら、現状を鑑みますと、町内においては運行されるタクシー事業者は3者あるいは4者と限られております。また、町民の利用においては、それぞれの事業が類似しているため、違いが分かりにくく、戸惑いを感じている方も多いのではないかと思います。一度それぞれのタクシー事業制度を見直し、類似タクシーの統合化を図り、簡素化あるいは運行の拡充など、町民の利便性の改善に努めていただければと思います。

また、特に現在運行しているへそ8バスとデマンドタクシーについてですが、住民の足として形は違えど、支援内容が重複しているところがあるのではないのでしょうか。へそ8バスは毎日決まった時間に決まった場所を運行してくれる路線運行、デマンドタクシーは家から目的地まで運んでくれる、いわゆるドア・ツー・ドアといったきめ細かい対応をしてくれる柔軟な運行。そこで、町長、どうでしょうか。どちらかをなくし、どちらかを残すというのではなく、お互いのメリットは残し、それぞれの利用ニーズに沿った運行を

するということはできないでしょうか。

例えば、へそ8バスは朝夕の時間帯のみの運行とし、その代わりに土日運行の移動手段を補い、また町外から吉備中央町を訪れる方を対象として土日の運行をする。一方で、デマンドタクシーは、バス乗り場までの移動が困難といった高齢者や子どもを中心とした交通弱者の移動手段としてへそ8バスの運行以外の時間に運行を行う。そうしてそれぞれの利用ニーズに沿った運行事業をすみ分けることにより、全体の限られている予算の中で効率的な運用をしていき、また免許返納者や子ども等については、割引制度など優遇措置を行う。

昨日は同僚議員からも質問がありましたように、小学校統合で見えてきた課題でもあり、子どもたちの遠距離通学を補完する移動手段として保護者から切実な利用ニーズがあるとも聞いています。

そして、もう一つの課題であるデマンドタクシーの利用者が増加することによる運転手不足については、第二種免許取得補助をすることで、人材の確保が図れる一助になるのではないかと思います。これは、全国の自治体で同様の課題を抱えており、一つの例として、近隣の自治体では地域公共交通運転手養成事業として従業員の第二種免許取得にかかる教習費用の一部を負担し、運転手の確保、育成のほうを行なっています。いいところはどんどんまねていけばいいと思います。常日頃山本町長がおっしゃっている誰一人取り残さない町民に寄り添う温かいまちづくりとして取り組んでみてはいかがでしょうか。

○議長（西山宗弘君）

答弁を許します。

山本町長。

○町長（山本雅則君）

片岡議員が総務課長のときに交通行政をやっていただきました。その思いを持ったまま議員になられたという思いを今感じさせていただきました。同じような思いでございます。

1つは、類似の運行をしているタクシーについては、見直しが必要かなと。なかなか分かりにくいということもございます。そしてまた、公平感とは何かなという観点からも、これは見直しが必要かなと思います。それと、俗に言うへそ8バスとデマンド、このすみ分け、考え方もよく似てます。

へそ8については、定期的に決まった時間に吉備中央町の主要路線を走って、少なくとも

も乗れば主要な拠点には行けますというのが大きな目的です。これは、まさしく私が言うある程度自治体の体をなしているかどうかだろうと思います。そのために必要。

そして、デマンドは、点から点を結ぶ便利な交通手段です。今言ったように、バスの主要な道まで出ていくのに使っていただきたいです。このデマンドについては、どんどんどんどん増えてきまして、今、業者のほうもなかなか対応が難しいという声も聞きます。そのために、運転手の確保等も重要なことでございます。それに対する補助につきましては考える必要はございますが、いろんな産業の方がおられてです。どのあたりにしっかりと手厚くというのも、それは考えていく必要がございます。企業努力をしていただくことも必要です。そして、大事な交通手段でございますので、行政のほうもそれをしっかりと考えていくというのも必要でございますので、これについては今後の検討とさせていただきたいと思います。

○議長（西山宗弘君）

10番、片岡昭彦君。

○10番（片岡昭彦君）

町長の再々の御丁寧な答弁ありがとうございます。前向きな検討ということで、その点をしっかり今後も協議していただければと思います。

いずれにいたしましても、どちらも多額の予算を伴うことでありまして、また民間事業者の方の考え方もあろうかと思えます。今すぐとは申しませんが、来年度の予算編成時には御一考してくだされば幸いかと思います。

先ほど、町長のほうから昨年の公共交通のアンケート結果の報告のほうがありました。回答者に免許所有者が多かったというのも一因とは思いますが、それぞれの公共交通を利用しない手段として、自家用車があるので利用しないとか、それぞれの項目で分からないといった意見が多かったのは、ほかにも様々な理由があるとは思いますが、自己移動に頼らざるを得ない我が町特有の交通事情によるものだと思います。とはいいながら、現在運転できる人たちも将来の移動に困らなくて生活できるまちづくりを今から確立していくことが必要であることも御理解いただき、それぞれの提案に取組のほうを切に要望いたします。

今回、複数の同僚議員から質問がありました公共交通に関することは、多くの町民が今一番望んでいることの表れではないかと思えます。町の施策の恩恵を受けるのは、ほかではない主役の町民であります。町民の生活環境が豊かになり、過疎化を少しでも抑えられ

れば、吉備中央町を愛する方が少しでも増え、地域が元気になっていきます。町民の熱い願いをこの交通施策に反映していただければと願うところであります。

以上で私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（西山宗弘君）

これで片岡昭彦君の一般質問を終わります。

順次発言を許します。

2番、渡邊順子君。

○2番（渡邊順子君）

2番、渡邊です。議長のお許しをいただきましたので、通告書に従って質問します。質問形式は一問一答です。質問は大きく1点、新小学校3校の現状についてです。

それでは、新小学校の現状について質問させていただきます。

新年度が始まり、加賀東、加賀西、加賀南小学校、それぞれで学校生活も2か月が過ぎました。以前の学校より人数も増え、通学においても距離が遠くなった子も多いと思いますが、そんな環境の変化に子どもたちはなじめているのか、また新しい環境の中、学校生活をどのように送っているのか、子どもたちの学校の様子をお聞かせください。

また、各小学校に新しくほっとルームが設置されたと聞いていますが、この部屋の意味と活用についてお聞かせください。

○議長（西山宗弘君）

答弁を許します。

石井教育長。

○教育長（石井孝典君）

2番、渡邊議員の御質問にお答えいたします。

御質問のとおり、令和7年4月から新設3小学校の開校に当たり、各校に自立応援室ほっとルームが開設をされました。この自立応援室は、岡山県の心の居場所推進プロジェクト事業でありまして、担当の専属教員を1名配置し、長期欠席、不登校児童や不安を抱えるそれぞれの児童の状況に応じた学習支援や生活支援、こういったことを行い、学校や教室への復帰を目指すとともに、一時避難としても機能することで、長期欠席、不登校の未然防止に努めることを狙いといたしております。

各小学校とも、このほっとルームの利用者は毎日数名の利用と報告を受けておりまして、具体といたしましては、学校へ登校したがすぐには教室に入ることができない児童が

教室へ入る前の心理的な準備を行い、教室に入ることができた、あるいは昨年度家庭から出ることが難しく長期欠席であった児童がほっとルームで学習に取り組むことができているなど、一人一人の状況に応じた支援と指導が行われ、利用する児童一人一人が自分と向き合い、今できる学びや活動に取り組む姿が見られております。

岡山県が掲げております学校を誰もが通いたくなる魅力ある場所とするために、吉備中央町教育委員会といたしましても、県教委と連携しながら本町の自立応援室の充実に努めてまいりたいというふうに考えております。

○議長（西山宗弘君）

2番、渡邊順子君。

○2番（渡邊順子君）

ほっとルームについての御説明をいただきましたが、今までは保健室対応ということもありました。それがこの部屋は自立応援室ということで、保健室対応よりももっと充実した子どもたちの対応ができているということで、各小学校で毎日数名の子どもが利用されているという現状、そして専属教員が1名配置されているというのは、子どもたちにとって安心できる部屋になっているということが分かりました。一人一人に向き合ってその子どもの現状に合わせた支援や学習ができるのは、その子にとっても、保護者にとっても安心だと思います。そして、子どもたちがまたこの部屋から次のステップに進んでいけるよう、この部屋の充実をよろしく願いいたします。

ほかには、3校から1つになったということで大勢の子どもたちがいますが、全体的には子どもたちは問題なく学校生活を送れていると考えたらよろしいのかと思います。その点についてはいかがでしょうか。

○議長（西山宗弘君）

答弁を許します。

石井教育長。

○教育長（石井孝典君）

御質問にお答えいたします。

ほかの子どもたちは問題なく学校生活を送れているかという御質問でございますけれども。子どもですので、成長段階であります。ですから、日々、一人一人が様々な場面で大なり小なりつまずきを抱えながら学校生活を送っているかと思っております。一つ一つの課題に各校の教職員は一丸となって丁寧に対応しているというふうに感じております。

また、昨年度まで統合を見据えて各学年での合同授業だとか、あるいは全校での合同行事というふうなことを可能な限り実施をしております、子どもたちの間には仲間意識が芽生えていたものというふうに感じております。

教職員からは、学級の人数も増えて多様な考え方に触れることで協力し合おうとする、そういう姿や前向きに取り組む姿勢が見られているというふうな声も聞こえてきております。今後、様々な課題も出てくるかとは思いますが、教育委員会といたしましては、各学校の教職員とともに保護者や、そして地域の方々にも御協力をいただきながら子どもたちのよりよい成長につながるよう鋭意努めてまいりたいというふうに思っております。

○議長（西山宗弘君）

2番、渡邊順子君。

○2番（渡邊順子君）

大なり小なりつまずきがある。これは、子どもにとっては確かにそのとおりだと思います。また、課題もある。そういうことは子どもの成長期においてはありますが、そこは大人のほうが早期発見をし、気づき、対応していただきたい。子どもの成長に影響がない、そういった取組を地域、PTA、学校の先生、教育委員会はもちろんそうです、連携を取って対応していただきたいと思います。よろしく願いいたします。

次に、多くの児童が遠距離となり、バス通学となりました。加賀東小学校では、バス路線が五路線あります。バスに乗るのも初めてだという子どももおられたかと思ひますし、路線によっては園児も条件付ではありますが、混乗されています。全体的にバスに乗り遅れて取り残されたとかそういった問題はないか、少し不安もありますが。

昨日の同僚議員からの質問に出ましたが、保護者の体調不良でバス停まで送っていくことができず、子どもたちは元気だけども学校を休まなければならなかったという話も私も聞きました。このときは1日の欠席で済みましたが、何日も続く場合、何か対策が必要となってくるのではないのでしょうか。地域性もあるとは思いますが、バス停までの距離もあり、学年も大きくなると自力でバス停まで行けるようになるのか、それも分かりませんが、保護者の状況によって子どもたちの学校生活に影響を及ぼしかねない状況に少し不安を感じます。今回休まれた家庭だけの問題ではなく、こういった状況が起こらない、また起こったときに子どもたちが安心して通学できる別の手段はないものか。例えばデマンドタクシーなどの活用ができやすくなるとか、そういったことを私も今回の質問にさせてい

ただこうと思いましたが、昨日の答弁を聞いていますとなかなか難しいのではないかと
いうふうな印象も覚えました。

旧御北小学校区では、バス5路線のうち、3路線があります。この路線は、スクールバ
スでありながら、路線バスでもあります。児童だけではなく、一般の人も混乗できるとい
うことで、まず私のほうもバスに乗ってみました。そこで感じたことは、とにかく運転士
さんが子どもたちの安全に大変気を遣って運転してくださっていることに、安全運転は当
たり前だということではなく、感謝しかありません。その3路線に同乗し、感じたこと
についてそれぞれ少し話をさせていただきたいと思います。

まず、園児が同乗されるバス路線が1便ありますが、このバスには何回か乗りました。
学校が始まってすぐには、低学年はスムーズにシートベルトができませんでした。しか
し、園児や1年生にとってはなかなかシートベルトをするのに時間もかかっておりました
が、高学年はスムーズにでき、手伝ってくださったりしていました。出発地点で園児が乗
るといふこともあるんですが、送ってこられた保護者の方が応援してくれたり、上級生の
子どもたちが下の子どもたちの面倒を見るという、当たり前のように当たり前ではない、
こういった教育がこの吉備中央町できていることには感心をすることでもありました。
1か月ちょっとたった頃には、子どもたちもバスに慣れてきて、シートベルトにも時間が
かからなくなってきていました。運転士さんは子どもたちのシートベルトができたのを確
認してからの出発など、当たり前のことですが、安全運転をしてくれているということに
は安心を覚えたところでもあります。保護者の方は、安全に子どもたちがバスに乗ってい
けるのだろうか、そういう不安もあるかと思いますが、運転士さんは本当によくしてく
ださっているので、安心できるのではないかなと思います。

この路線は、狭い道で対向車を交わせない場所もあり、非常に気を遣いながら運転され
ています。それだけでも大変ですが、雨が降ると竹が大きくしなり、運転に支障が出るよ
うです。また、枯れた松もありまして、この松については以前教育委員会のほうにお伝え
し、確認をさせていただいております。今後も気にかけていかれるとおっしゃってくださ
ったので、適宜対応をよろしくお願ひしたいと思います。

また、この路線は学校到着時間が始業時間ぎりぎりになることも多いようですが、この
時刻表についてはなかなか見直しも厳しいとお聞きしています。子どもたちの学校生活に
影響が出ないようお願ひしたいところではありますが、運転士さんも安全運転をしてくだ
さっているので、まずは安全運転を1番と考え、検討ができるのであればお願ひしたいと

思います。

また、違う路線では、子どもがバスに酔って嘔吐したという話を聞きました。嘔吐したそのときは、運転士さんが対応してくれたそうです。運転士さんもふだんの運転に加え、嘔吐の処理など大変だったのではないかと思います。それ以降、その子どもは片手にビニール袋を握り締めてバスに乗っています。運転士さんにお話を聞きますと、いつでも嘔吐に備えて対応できるように準備もしてくださっているそうです。運転士さんからこの話を聞いたときには、心からありがたいと思い、お礼を申し上げたところです。

嘔吐した後、子ども自身も保護者の方もバス通学に少し不安を持たれたのではないかと思います。数日はバスに乗らず、保護者の方が送迎をされていたようですが、現在は先ほど申しましたように、片手にビニール袋を握り締めていますが、元気にバスで通学できています。その子どもの様子を私も見ましたが、運転士さんが時々気にかけて大丈夫かと声かけをしてくれていました。その子どもの席については一番前の席になっていました。これについてもお聞きしますと、バスに酔わない席がどこなのかということもありますが、運転席から気にかけてみたり、声かけができるからということでした。ここまで考えていただき、ありがたいと思いました。

全く違う路線ですが、同じように嘔吐した子どもがおられる話も聞こえてきました。そのバスでは席が固定されているようで、バスの席の変更を希望されているとも聞きましたが、現在も変更されていないようです。バスの席はどのように決定されているのでしょうか。バス通学においては、少なからず子どもにも影響があるかと思います。その子どもは、毎日酔い止め薬を飲んで登校されているようです。毎日薬を飲まないで学校に通えない、そういう状況はどうなのか。子どもたちが安心してバス通学ができるように、できる配慮は速やかに対応していただけるようよろしくお願いします。

話は戻りますが、先ほどの路線は少し距離も長く、またカーブや道のへこみなどがあり、運転士さんも気をつけて運転してくださっていましたが、実は私も酔いそうになりました。私自身、子どもの頃から車に酔いやすい体質でもあるのですが、その日はバスに乗ろうと朝御飯を食べてすぐばたばたしていたので、それが原因かと思いついた節もあったので、私自身反省もしました。バスに乗るに当たっては、睡眠と朝御飯、そして少しの時間のゆとりも必要かと感じました。保護者の方もお忙しいとは思いますが、早寝・早起き・朝御飯と、この意味を御理解していただき、子どもたちにも声がけなどをしていただけるようよろしくお願いします。

そして、3路線のうち最後の路線では、気になるバス停があると聞いたので、私も気にしながら乗ってみました。出発場所は事前に検討されて安全な場所になり、子どもたちも安心して乗ることができていました。しかし、途中の気になるバス停と伺っていたところでは、私がバスに乗っていてもそこにバス停があるということに気づきませんでした。バスが停車し、子どもたちがいたので、ここがバス停なんだとびっくりしたところです。運転士さんはもちろん把握されているので問題はないかと思いますが、この時期は草も子どもの背より高く伸びていて、私の席からは子どもの姿が見えませんでした。聞いた話によると、足元には除草シートを敷いていましたが、それもそのバス停を利用する子どものおうちの方がバス停の足元を気にされて敷かれたようです。そのバス停の回りの草も一部刈ってくれていました。また、雨の日には通る車の水が跳ねて、そこに立っていた子どもたちがずぶぬれになったと聞きました。水がたまる道路にも問題があると思います。子どもたちが安心・安全にバス通学ができるようバス停の確認をしていただき、改善に向けて対応していただきたいと思います。

ほかにも、行きと帰りではバス停の降りる場所が変わってきます。反対方向になり、狭いところや道路を横断するのにも横断歩道はなく、危険を伴うところもあります。すぐには無理でも、何回も言いますが、子どもたちが安心・安全にバス通学ができるよう対応していただきたいと思います。

次に、下校についてお尋ねします。

学校が始まって2か月がたちましたので、下校についても落ち着いてきたかと思えます。下校は、バス下校のほかに、自力徒歩下校、保護者や習い事のお迎え、待ち下校や児童クラブなど様々です。昨年までは待ち下校というものがなかったと思いますが、この待ち下校についてお尋ねします。

現在、待ち下校も行われていますが、この待ち下校は児童クラブ棟に場所を移して行われています。1時間足らずの時間に学校から離れた児童クラブ棟へ、そしてまた学校へ帰るという流れになっていると思います。まずは、待ち下校についての説明とその時間子どもたちはどのように過ごしているかを教えてください。

そして、いよいよアフタースクールが始まります。アフタースクールについては、次の質問で詳しく尋ねたいと思います。ここでは下校について。アフタースクールが始まると、また下校も複雑になるのではないかと想像します。特にアフタースクールがある日の待ち下校については、アフタースクールに参加、不参加によりいつもと変わってくるので

はないかと思えます。どのように把握していかれるのでしょうか。また、児童管理システムを導入するとなっておりましたが、このシステムの現状と運用の仕方についてお尋ねします。

バス通学について私が感じたり聞いた話を長々とお話しさせていただいたわけですが、②の質問をまとめますと、まずバス通学において子どもたちの様子とバス路線の状況について、そして待ち下校の過ごし方と児童管理システムの現状と運用の仕方についてお尋ねします。

○議長（西山宗弘君）

答弁を許します。

中山教育委員会事務局長。

○教育委員会事務局長（中山 仁君）

それでは、質問にお答えいたします。

通学バスの状況でございますが、地域の方の見守り等の御協力をいただきながら安全な運行を実施できていると感じているところでございます。

また、運行時間については、おおむね想定どおりの時間となっておりますが、引き続き遅れないよう、より適正な運行を検討してまいります。

続いて、待ち下校中の過ごし方につきましては、放課後児童クラブの支援員による児童の見守りが行われ、各自で宿題をしたり、本を読んだり、友達と遊んだり、自由に過ごしているというふうにお聞きをしております。

続きまして、児童管理システムでございますが、アンケート機能でアフタースクールの各プログラムの参加意向を保護者に入力していただくことで、事前に参加者を把握することができます。また、児童ごとにQRコードを発行し、アフタースクールや放課後児童クラブにおいてQRコードを読み込むことで、児童がアフタースクールに参加しているのか、また放課後児童クラブにいるのかを保護者や関係者がアプリ上で把握できるよう整備をしているところでございます。

いずれにしましても、児童の安全を第一に、児童の動線確保と受入れ体制を整えていきたいと思っております。

以上です。

○議長（西山宗弘君）

2番、渡邊順子君。

○2番（渡邊順子君）

答弁にありましたように、バス通学は保護者の方や地域の方の御協力と、また運転士さんの安全運転で通学できていると私も思います。

また、運行時間においても、どうしても多少のずれがあるとは思いますが、それに関しては仕方がないところもあるとは思いますが、運転士さんに負担をかけることはできませんので、学校の始業に間に合うようにだけはよろしくお願ひしたいと思ひます。

また、先ほどの質問の中で言わせていただきましたが、保護者の急な体調不良などバス停までの送迎ができない場合の対応策については、昨日の同僚議員から同じような質問がありました。現状ではなかなか難しいというような答弁だったように感じています。吉備中央町は、子どもは地域の宝物とうたっています。同僚議員も、子どもの学校生活における1年は貴重な1年だと言われていました。そのとおりだと思います。今、子育てを頑張っておられる保護者の方は、皆さん同じ思いではないでしょうか。安心して子育てができるまちにするためにも、いま一度お考えをお聞きしたいところではあります。きつと昨日と同じ答弁が返ってくるのではないかと想像できますので、あえてここでは質問しませんが、前向きに、本当に前向きに検討し、安全に子どもたちが学校に通学できる、そういうことをしていただきたいとお願ひするしかありませんので、よろしくお願ひいたします。

シートベルトについてですが、私も3路線に乗ってみて、着用しているバスと自由のバスがありました。これは通学バスと言ひながら、路線バスだからということでもありました。この点については教育委員会としてはどのようにお考えでしょうか。

また、バス停についてですが、気になる箇所はお伝えさせていただいておりますが、伸びた草で子どもたちが車から見えなひとか、雨の日は道路に水たまりができる、そして走る車の水をかぶるという状況を考えますと、このバス停においては何かもう少し対策はできないものではないでしょうか。

○議長（西山宗弘君）

答弁を許します。

中山教育委員会事務局長。

○教育委員会事務局長（中山 仁君）

それでは、答えをいたします。

議員おっしゃられるとおり、スクールバスのシートベルトについてですが、一部の路線

バスにはシートベルトがない車両がございます。児童には学校からシートベルトがある場合には必ず着用するよう指導しており、実際に児童たちも装着しているところでございます。シートベルトのあるなしにかかわらず、走行中は着席することとし、安全にバス通学ができるよう指導をしているところでございます。

次に、バス停についての御質問ですが、場所によっては議員がおっしゃられているような箇所もあるかというふうに承知しております。今後も自宅からの距離、また待合に適した場所について、PTAの方や地域の方の御意見等も踏まえながらよりよいバス停の場所を検討してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（西山宗弘君）

2番、渡邊順子君。

○2番（渡邊順子君）

今の答弁にはありませんでしたが、昨日の同僚議員の質問の中で答弁があったPTAからの通学路における危険箇所についての要望書、これについてですが、確かに毎年要望書が上がっていたと思います。今年度から新しい学校になりましたが、同じようにPTAから要望書が出るような活動をしていかれるのか、その辺が気になるころではあります。そういった活動をしていただき、PTAから危険箇所、通学路についての要望書が出るように、そしてまた出た暁には、教育委員会としても、また担当課によりましても県のほうに要望するなり、そういった対応をよろしくお願ひしたいと思います。通学路も広範囲になり、新たな危険箇所や安全に対する要望が上がってくると思います。保護者の方も、しっかりと自分の子どもたちがどの通学路を通過して、どのような危険があるのかというところを考えていただきながら、みんなで子どもたちの安全を協力しながら考えていけたらいいと思います。

では、アフタースクールについてお尋ねします。

アフタースクール開始に向けて、保護者の方には昨年度からいろいろと説明があったかと思ひます。そして、いよいよ始まります。保護者には参加についての詳細が配られ、参加申込みもあったようですが、申込み状況はいかがでしようか。

そして、カリキュラムも示されたようですが、いま一度議会においてアフタースクールの取組について、意義と今後の流れやカリキュラムについてもできる範囲で説明をお願いしたいと思います。

また、アフタースクールをするに当たっては、学校の協力はもちろんのこと、児童クラブの協力も不可欠だと思います。学校と児童クラブの連携についてどのようにしていくのかお尋ねします。

○議長（西山宗弘君）

答弁を許します。

中山教育委員会事務局長。

○教育委員会事務局長（中山 仁君）

それでは、お答えをいたします。

アフタースクールにつきましては、学校の授業終了後に学びの場、得意分野を発見できる気づきの場となるように、スポーツ、物づくり、文化芸術、国際教育の4つの柱において、体験活動を通じ、子どもたちがいろいろな体験活動する中で社会性、自信を持つことや人としての力を育む場となることを目的として実施するものでございます。

今後の流れでございますが、まずアフタースクールの参加申込み状況につきましては、加賀東小学校が全校児童87名に対して64名、加賀西小学校が全校児童106名に対して84名、加賀南小学校が全校児童178名に対して145名の参加申込みがあり、町内の児童371名のうち、約8割の293名が申込みをしている状況となっております。

6月4日から6日間の間で放課後児童クラブ支援員及び補助員を対象とした児童管理システムの導入に伴う説明会、保護者を対象とした同説明会を6月10日を皮切りに各小学校で実施しているところでございます。あわせて、児童についてもQRコードの扱い方などを各学校で説明を行う予定でございます。

アフタースクール開催における学校と放課後児童クラブとの連携につきましては、間違いなく児童がそれぞれの活動の場所へ向かえるよう、学校の出欠や児童に関する変更事項などをシステム上で確認をし、時にはデータを紙で出力して学校、放課後児童クラブ、子育て推進課、教育委員会で情報を共有し、児童の安全を第一に児童の動線確保に向けた連携体制を整えているところでございます。

以上です。

○議長（西山宗弘君）

2番、渡邊順子君。

○2番（渡邊順子君）

アフタースクールの目的については、当初から4つの柱とされています。学びの場で

あり、気づきの場となるようなカリキュラムをしっかりと考えられて組まれていると思います。スポーツにおいては、サッカーでは岡山フジアーノがJ1に昇格し、また先日卓球では張本智和選手が岡山リベッツに入団されました。もしかしたらこの有名なトップアスリートがアフタースクールに関わってくれるかもしれないと考えると、もうわくわくして期待しかありません。この点については、教育長、お力を発揮し、ぜひともトップアスリートの派遣をよろしくお願ひしたいところであります。

ほかの物づくり、文化芸術、国際教育においても、ふだんの生活では出会えないこともたくさんあるのではないのでしょうか。意義のある事業だと考えます。保護者の方もしっかりと御理解いただいた上で、大勢の子どもたちに参加していただきたいと思います。参加申込みの人数を聞きますと、現在3小学校の児童数371名中、約8割の293名の申込みがあったとお聞きしましたが、この割合については教育委員会としてはどのようにお考えでしょうか。

○議長（西山宗弘君）

答弁を許します。

中山教育委員会事務局長。

○教育委員会事務局長（中山 仁君）

それでは、お答えいたします。

約8割の参加申込みがあったことにつきましては、おおむね想定をしていた結果というふうに考えております。他の習い事であったり、それぞれの御家庭のお考えもあるかと思いますが、今後もより多くの児童に参加してもらえよう取り組んでまいりたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（西山宗弘君）

2番、渡邊順子君。

○2番（渡邊順子君）

始まってみないと分からないというところもありますが、始まって子どもたちが生き生きと楽しんで、そういう様子が参加を申込みしてない子どもたちに伝わって参加が増えるということは期待しております。ただ反対に、もう行かんわってなるような、そういうことにはならないことを願っております。よろしくお願ひいたします。

教育長、先ほど私が教育長にお願ひしたトップアスリートの件についてですが、どのよ

うにお考えでしょうか。

○議長（西山宗弘君）

答弁を許します。

石井教育長。

○教育長（石井孝典君）

御質問にお答えいたします。

鋭意頑張らせていただこうと思っております。

○議長（西山宗弘君）

2番、渡邊順子君。

○2番（渡邊順子君）

ぜひともお願いしたいところであります。

児童管理システムでは、児童クラブの先生を対象に説明会も開かれ、また保護者においても説明会の実施をし、児童も各学校でこれから説明を受けると思いますが、このシステムは児童ごとにQRコードが必要だと理解をしましたが、このQRコードについてもう少し御説明をいただけないでしょうか。

○議長（西山宗弘君）

答弁を許します。

中山教育委員会事務局長。

○教育委員会事務局長（中山 仁君）

それでは、御説明をさせていただきます。

アフタースクールに来た際に各児童がQRコードを機器にかざすことで、児童の所在が保護者のスマートフォンに送られるというようなものでございます。

以上です。

○議長（西山宗弘君）

2番、渡邊順子君。

○2番（渡邊順子君）

保護者の方も子どもが今どこにいるかが分かれば、安心にはつながると思いますが、このQRコードは、つまりアフタースクールに参加される児童と児童クラブを利用する児童のみに与えられる、そのように考えますと、参加されない子どもたちにはQRコードがないというふうに考えたらよろしいでしょうか。

○議長（西山宗弘君）

答弁を許します。

中山教育委員会事務局長。

○教育委員会事務局長（中山 仁君）

議員お見込みのとおりでございます。

以上です。

○議長（西山宗弘君）

2番、渡邊順子君。

○2番（渡邊順子君）

QRコードについて、子どもたちが自分で管理をする、自分で管理はしないんですかね。アフタースクールがあるときには、教育委員会が持参されると聞きました。児童クラブでは各クラブで管理するということが分かっておりますが、アフタースクールや児童クラブに新しく参加されるときには、その都度QRコードをどのように作成していくと考えたらよろしいでしょうか。

○議長（西山宗弘君）

答弁を許します。

中山教育委員会事務局長。

○教育委員会事務局長（中山 仁君）

お答えします。新しく入った際に、新しいQRコードを各児童におつくりして渡すということでございます。

○議長（西山宗弘君）

2番、渡邊順子君。

○2番（渡邊順子君）

QRコードを全員が持ち、子どもたちの安心・安全が保護者のほうに伝わるという、そういうふうになっていけばいいかなと思います。

また、漏れなくQRコード、紛失ということもありますが、その辺の管理についても速やかに対応していただけたらと思います。

それでは最後に、アフタースクールにかける熱い思いを町長、教育長に一言お願いしたいと思います。

○議長（西山宗弘君）

答弁を許します。

山本町長。

○町長（山本雅則君）

アフタースクールにつきましては、小学校が9校から3校に統合されました。そうした中で互いが各校がある程度集まったということで、できなかったことが3校になることによって多くできることができた、それは一つのプラスだろうと思います。ただ、それにとどまることなく、統廃合をする検討の中で、子どもたちにとってより何か特色のあるものを検討してきました。それが、アフタースクールでございます。今、アフタースクールがもう間近で始まると思いますが、言われた一流の体験、そして最先端の技術、もう一つは高い芸術、そして郷土愛というものにしっかりと触れていただくということが大事だろうと思います。そうした中で子どもたちがこれからの生きる力を見いだせるようなアフタースクールにしていきたい、そのように感じてます。

○議長（西山宗弘君）

石井教育長。

○教育長（石井孝典君）

御質問にお答えいたします。

私は、吉備中央町の子どもたちに、いろんなこと、様々なことを体験できる場を提供してやりたいなというふうに思っております。学校の教育課程の中で学習する学びというのは当然大切なことではございますけれども、アフタースクールの様々な活動プログラムの中で、地域の方々や、そして各分野の専門の方々、そして学校の先生とは違う立場から指導を受けることによって、豊かないろんな体験活動することで、一人一人がそれぞれに合った何かわくわくドキドキするような、そういうものを発見してくれたらいいなというふうに思ってます。その発見からきっと一人一人にこれなら頑張れるというようなものを、自分に自信が持てる、これなら自信が持てるというようなものを見つけてくれるものだろうというふうに思っております。子どもたち一人一人がそのような発見をすることで、ささやかでいいと思ってます、オリジナルな自信を持ってもらって、そしてこのようないろんな学び、今後も続けていくことになるかと思えます。そういう将来の様々な学びの中でそのささやかな自信を心に持ちながら、いつの日か光が差してきた目標に向けて勇気を持ってチャレンジできる、そういう人材に育ててくれたらなというふうに思ってます。その力こそ、先ほど町長がおっしゃられた将来を生きる力、もっと言えば生き抜く力につなが

っていくものというふうに思っております。

この取組は、議員の皆様をはじめ、地域の子どもたちに何かできたらなというふうに思ってくださいの方々、そして各分野の専門の方々に御協力いただきながら、共に子どもたち一人一人の個々に応じて育てていける環境となればよいというふうに思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（西山宗弘君）

2番、渡邊順子君。

○2番（渡邊順子君）

私の質問は小学校の現状についてさせていただきましたが、子どもたちにとって新しい環境での学び、そして多くのお友達と安心・安全で楽しい学校生活を送れることを願っています。

アフタースクールについては、ただいま町長と教育長に熱い思いを語っていただき、生きる力、生き抜く力、そして自信が持てる、今の子どもたちはメンタル面が弱いといいますが、ちょっとしたことで頑張れない、頑張ってる子ももちろんそうですけど、ちょっとこちらが不安になるような優しい、いい意味で言えば優しい、ただその優しさが生き抜く力になかなか結びつかないところもあるかと思います。子どもたちには元気に力強く生き抜いていただきたいと思います。そういった意味でも、先ほど町長、教育長が語ってくださったように、そういうものが学べる体験の場、学びの場、気づきの場、そういったアフタースクールになってほしいと思います。そして、やっていると課題も見つかるかもしれません。そういうときには、その課題に真摯に向き合って対応していただく、そして速やかな対応をしていただく、そういうことも必要ではないかと思います。アフタースクールが子どもたちにとってたくさんの学びと体験、経験、すばらしい時間になりますことを期待して、私の質問は終わります。

○議長（西山宗弘君）

これで渡邊順子君の一般質問を終わります。

順次発言を許します。

6番、河上真智子君。

○6番（河上真智子君）

では、6番、河上真智子です。議長の許可をいただきましたので、通告に従って質問を行います。

質問は、一問一答形式。本日の一般質問のテーマは、スクールバスの運行についてとデジタル田園都市構想についての2点です。

最近の不安定な気候のせい、丈夫が取り柄の私でもちょっと風邪ぎみなもので、少しお聞き苦しいところがあるかもしれませんが、どうぞ御容赦ください。皆様も体調には十分お気をつけいただきたいと思います。

では、質問を始めます。

最初に、スクールバスの運行についてお尋ねしていきます。

この春、小学校の統合により、児童の通学の足としてスクールバスが町内の各所から運行されています。子どもたちを安全に運ぶため、運転士の方は日々安全運転に注力されています。統合の計画に合わせて、各部会に分かれて詳細な検討と準備がされてきたと伺っています。しかし、スクールバスに関しては、4月の開校に合わせて全てのルートでの入札での成立ができていませんでした。運転士の確保が間に合わず、町の任用職員の運転員にスクールバスを振り分けて急場をしのいだような感じになりました。この大きな要因は何だったと考えられますでしょうか。

○議長（西山宗弘君）

答弁を許します。

中山教育委員会事務局長。

○教育委員会事務局長（中山 仁君）

それでは、6番、河上議員の御質問にお答えいたします。

議員御指摘のとおり、令和7年4月の新小学校のスクールバスの運行開始に向けて小学校スクールバス路線4路線の入札を実施しましたが、2路線が入札不調となりました。

1路線については、4月に実施した入札により5月から運行契約ができており、残る1路線については会計年度職員を任用して計画どおり運行しているところです。

入札不調の大きな原因としましては、事業者様の御都合であったり、当該バス路線の運行距離が短く、また運行時間が少ないことなどが原因と考えられます。

以上です。

○議長（西山宗弘君）

6番、河上真智子君。

○6番（河上真智子君）

答弁のとおり、入札の不調の原因は、事業者が採算が合わないと判断したためだと思

ます。統合によって当然スクールバスの台数が増えるのは分かっていたわけですが、それに対応するだけの運転士を配置しておかなければならない。ですが、見合わない金額ではスクールバスに参入せず、タクシーとか貸切りバスにシフトしたほうが利益が上がるので、当然事業者としてはそちらのほうがいいなという判断をするのは自然だと思います。町内業者だけでなく、町外の業者に対しても平等に入札を行なったにもかかわらず、応札がなかったと聞いています。事業者はボランティア活動をしているわけではありませんので、利益を確保し、雇用を守らないといけません。必要な経費が出ず、採算が取れないと判断すれば、参入してくださるはずがありません。

参考に、中学校のスクールバスの落札額を調査しました。2年単位の入札ですので、令和1、2年と7、8年を比較すると、落札額は当初の金額より、路線によって多少差があるものの、全てにおいて4から18%減と、年々下がっております。消費者物価指数はどうかというと、皆さんも日々の暮らしの中で実感はされていると思いますが、令和2年を100として7年を比較すると、111.5と10%以上上昇しています。

スクールバスの入札はドライバーの人件費と運行管理費なので、単純に比較するわけにはいかないのですが、世の中の様々なものが値上がりしている中で、スクールバスの入札額だけ物価上昇や賃金上昇に見合っておらず、逆に下がっているのは納得がいきません。これはどう考えたらよろしいのでしょうか。

○議長（西山宗弘君）

答弁を許します。

中山教育委員会事務局長。

○教育委員会事務局長（中山 仁君）

それでは、お答えをいたします。

中学校スクールバスの入札について、令和元年、2年度と比較して運転労務費等の上昇により、令和7年、8年度の設計額に反映し、増額となっているところでございます。しかしながら、落札額としましては、議員御指摘のとおり、令和元年、2年度のほうが高い落札額となっているところであります。事業者様の御努力を感じるところでございます。

以上です。

○議長（西山宗弘君）

6番、河上真智子君。

○6番（河上真智子君）

競争入札ですので、事業者の努力で低い値段になっても、それで受けてくださったと言われればそれまでなんですけど。近隣のバス会社に尋ねてみると、我が町の設計額はあまりにも低い、人員に余裕があっても、その価格でもし我が町のスクールバスを受けてしまうと、それが自分が運行している市町に分かった場合、それで受けられるんならうちはおもっと金額を下げているんじゃないかという可能性があるため、我が町の入札には応じられないということだそうです。私はこれを聞いて、恥ずかしいなと思いました。我が町は入札に応じるだけの価値がないと言われてるのと同じだからです。大切な子どもたちの通学の足となるスクールバスです。それならば、安ければいいでなく、相応の待遇で安全運行を委託すべきではないかと考えます。

次に、入札の際には設計価格と最低制限価格が設定されています。具体的なパーセンテージは今後支障があるため答えていただかなくても結構です。しかし、スクールバスの場合についての考え方をお尋ねしたいと思います。

事業者は運転士に対して給料を支払わなければならないので、人件費部分は削ることはできません。そして、その上に安全運行には欠かせない運行管理業務費がかかることになっています。この2つを削るような設計価格や最低制限価格では、事業者は事業活動が成り立ちません。我が町は子育て支援が手厚い町です。どこよりも手厚いいろんな施策があります。その大切な子どもたちを安全に学びの場まで送迎する、そのことに関心を砕いているかが入札価格や最低制限価格に反映されるべきではないでしょうか。その点に関してはいかがお考えでしょうか。

○議長（西山宗弘君）

答弁を許します。

中山教育委員会事務局長。

○教育委員会事務局長（中山 仁君）

それでは、お答えをいたします。

議員御指摘のとおり、設計価格と最低制限価格を設定しております。設計に当たっては、安全な運行を確保していただくために、運行時間のみではなく、運行前、また運行後の点検時間の人件費としての運転労務費と併せてその他管理費により積算をしております。

より安全な運行を確保するために必要な設計価格となるよう、今後も適切な積算をしてみたいというふうに考えているところでございます。

以上です。

○議長（西山宗弘君）

6番、河上真智子君。

○6番（河上真智子君）

スクールバスの入札価格は、今局長が言われたように、その時間だけでなく、その前後の管理、例えば運転士さんが行ってすぐバスに乗るわけではないので、運行前の点検、そして終了時の点検、いろんなことがありますので、それも含んで設計価格をしていただいているというのはありがたいなとは思いますが、運行管理者のほうも多少気を配っていただきたいと思います。朝早く出てきて、まず車の点検、そして従業員さんのチェック、心を砕いておられます。その部分を削るようなことがないようにと、もう一度考慮していただきたいと思います。取りあえず大切なのは、我が町の大切な子どもたちを安全に運んでいただきたい、その点をもう一度考慮しての価格設定をぜひともよろしくお願いいたします。

次に、入札における落札価格は、単に事業者サイドの損得だけでは終わらない問題だと思います。今後の対応についてお伺いをしていきます。

今後、例えば5年先のスクールバスの継続的かつ安定的な運行の確保が担保できるかという問題をはらんでいます。現在の運転手の方々の年齢、すなわち高齢化の問題です。先ほど同僚議員からも出ていましたが、二種免許をお持ちの運転士さん、年齢の高い方も多く、また持っていらっしゃる方も少ない。高齢者だから事故率や病気のリスクが高いとは一概には言い切れません。しかし、既に後期高齢者となっている方々が、5年先、80代になっても継続して運転に関わってくださるでしょうか。もしそうであっても、保護者はそれでいいと納得して我が子をバスに乗せるでしょうか。そのことを考えると、今後の安定的な運行の確保には、若い世代の補充は欠かせません。

コロナウイルスの流行によってバスの需要が大幅に減りました。ドライバーは、貨物運送へと流れました。一旦バスを下りたドライバーは、人を運ぶという精神的なプレッシャーから解放され、しかも収入が多くなったことから、バスに戻ることはほとんどないそうです。若手の方は、なおさらです。

では、どのようにして若手のドライバーを確保するのか。第1は、賃金です。同年代、例えば40代なら、同じ40代の他業種と同等程度であることは最低条件だと思います。人命を預かる責任の重さを考えれば、当然のことだと思います。これを運送業者が払える

だけの入札価格あるいは随意契約金額でなければ、人材の確保はできません。今後の安定的な運行を見据えての金額設定こそ、若手のドライバーの雇用につながり、万が一体調不良などでドライバーが出勤できない事態が起きても運行が維持でき、ひいてはこの先も継続的かつ安定的なスクールバス運行が担保できるものと考えますが、いかがでしょうか。

○議長（西山宗弘君）

答弁を許します。

中山教育委員会事務局長。

○教育委員会事務局長（中山 仁君）

それでは、お答えいたします。

議員御指摘のとおり、全国的に大型ドライバーの担い手不足となっており、県内の主要路線バス事業者でも同様の懸念があるということは聞いているところでございます。町としましても、事業者様からも情報収集し、安全・安心な運行となる委託状況となるよう努めるとともに、町職員の任用など様々な手段を用いて運転員の確保に努めてまいりたいというふうに考えております。

○議長（西山宗弘君）

6番、河上真智子君。

○6番（河上真智子君）

国交省のほうからは、バス協会を通じて不当な値引き要求や状況に合わせて価格設定をしない場合に関する通達があったようです。こういうことに当てはまらないように注意は必要だと思います。

また、先ほどの同僚議員たちの質問にもありましたが、人材確保が一番重要な課題です。そして、喫緊の課題でもあります。適正価格での契約ができるよう、早期の対応の検討をお願いしたいと思います。

そして、もう一つ考えなければならないのが、現在の小学校3校、中学校1校の計4校に対して町内のバス運行事業者が2者という体制で、本当に競争入札が必要なのでしょうか。現在の運行を見ても、事業所から遠い路線を落札し、請け負ってる路線では、空車で走る距離が長いケースがあります。朝夕2回の送迎ならば、その距離の半分つまり一往復分は空のまま走っている計算です。スクールバスは、車両と燃料、メンテナンス費用は町の費用です。御存じのように、燃料費も高騰しております。

そこで、例えば事業所から近い学校を2校ずつ2者で分け合って負担していただけれ

ば、無駄な経費が省けるのではないのでしょうか。そして、金額は道路運送法にのっとり適正価格を協議で決めれば、町も無駄な経費削減ができ、事業者もドライバーの新規採用に対応できるだけの余裕が生まれるのではないかと考えますが、なぜ随意契約ではいけないのか、それをお答えください。

○議長（西山宗弘君）

答弁を許します。

中山教育委員会事務局長。

○教育委員会事務局長（中山 仁君）

それでは、お答えをいたします。

入札の目的としましては、透明性を確保し、税金を有効に活用することであり、現在の入札の実施形態は条件を付した一般競争入札としています。近年は入札に参加されるのは、町内の2業者となっています。先ほどの答弁同様、今後も安全なスクールバスの運行が継続できるよう、公平性などを考慮してどういった方法が可能であるかを研究してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（西山宗弘君）

6番、河上真智子君。

○6番（河上真智子君）

では、もう一つ。小学校の合同校外学習に係る貸切りバスの入札についてもお尋ねしていきます。

これも、競争入札方式で行われていますが、見積りの出発点がいずれもきびプラザになっています。スクールバスの計算の場合は、賀陽庁舎が発着点となっております。以前、この点を教育委員会に尋ねたところ、一斉に集まって出発するのがきびプラザが場所的によいからとの答えが返ってきました。でも、よく考えてみると、これはもうその時点で入札の平等性を欠いています。片や数百メートル、片や十数キロ、平等に入札金額を算定するためには、2つの運行事業者から発着点までの距離がほぼ等しくなければ競争にはなりません。

道路運送法によれば、児童が集まって乗るのがたとえきびプラザであっても、賀陽庁舎を発着とした場合には、誰か1人、例えば社協の方だとか先生を1人、当日に乗車する人を賀陽庁舎に待機させ、そこから乗せれば、そこが発着点となる。もちろん見積りもそこ

が発着点となるということでした。何とか教育委員会に発着点の問題を解決していただくように申入れをしましたが、いまだに改善をしていただけてはおりません。この点に関してはいかがでしょうか。

また、こちらも競争入札でなく、教育委員会から順番に振り分けて規定にのっとった金額の見積りを依頼すれば、シンプルで平等な対応になるのではないかと考えますが、いかがでしょうか。

○議長（西山宗弘君）

答弁を許します。

中山教育委員会事務局長。

○教育委員会事務局長（中山 仁君）

それでは、お答えをさせていただきます。

学校行事等で貸切りバスを利用させていただく場合の集合場所については、子どもたちの集合に適切な場所や目的地等を勘案しながら、可能な限り時間、距離を鑑みて効率的な場所を選定しています。

議員がおっしゃられていますきびプラザを発着点とする合同校外学習とは、教育委員会が年1回実施する瀬戸内市での事業のことと拝察いたしますが、そのほかにも学校や公民館において様々な行事がございます。その集合場所については、各学校や公民館などケース・バイ・ケースとなっております。これにつきましても、スクールバスと同様に公平性を重視しながらどういった方法があるのかを研究してまいりたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（西山宗弘君）

6番、河上真智子君。

○6番（河上真智子君）

集まりやすい場所がいいのは誰でもそうと思いますが、目的地の距離など理由はいろいろあると思います。でも、再度研究をしていただきたいと強く要望いたします。

最後に、1番目の質問の最後です。車両の運行管理についてお尋ねしていきます。

一般の公用車は、総務課管理となっております。スクールバスは教育委員会の管理です。給食運搬車の車検切れなどの問題があったとき、総務課で車両管理を担当する車に詳しい職員が一元管理していれば、未然に防ぐことができたのではないかと思います。ス

クールバスは一般の公用車とは扱い方が異なり、また多くの児童・生徒を乗せるため、より日々の管理が必要です。総務課での一元管理とすれば、点検、車検管理、修理などの対応がスムーズになるのではないかと思います、いかがでしょうか。

○議長（西山宗弘君）

答弁を許します。

中山教育委員会事務局長。

○教育委員会事務局長（中山 仁君）

それでは、お答えいたします。

教育委員会の管轄車両は、スクールバス、図書館、給食車等を含めて26台となっております。町有財産としては総務課で一括管理としておりますが、日々の運行状況や車両の管理については現在各担当課で管理することとなっておりますので、定期点検等に遺漏のないよう引き続き教育委員会として管理をしていくこととしております。

以上でございます。

○議長（西山宗弘君）

6番、河上真智子君。

○6番（河上真智子君）

管理も大変でしょうけど、よく点検のほうをお願いしたいと思います。バスは特殊な車両ですので、走行距離をたくさん走るほうがずっと長もちして元気に走るそうなので、そちらのほうも勘案しながら適宜な車両の入替えとか、どうかよろしくをお願いしたいと思います。

また、今後、公共交通インフラの整備を進める過程で、ほかの市町でも取り入れられている一般乗客との混乗についても検討する時期がやってくる、そう思います。公用車の一元管理は避けては通れない道だと思っています。混乗は児童の抵抗感がという答弁もありましたが、都市部の子どもたちはバスや電車を使って小学校1年生が通学するのも珍しくはありません。やらない言い訳にはせず、広い視野で考えていただく必要があると思います。

今回の質問の趣旨は、大切な子どもたちの通学の足の確保として運行しているスクールバス、何より大切なのは安心・安全であること、今後の継続性の担保です。例えばドライバーが急病などでお休みするから今日はスクールバスは走りません、保護者で送迎してください、ほかの議員から出ましたが、本当にそれでいいのでしょうか。急な予定変更に対

応できない家庭の子どもは登校の機会を奪われるのか、取り残してもいいのかということです。単に運行事業者をもうけさせろと言っているわけではありません。予備のドライバーがいつでも確保できる状態の体制が整っていること、それ相応の価格設定をしてあること、それがひいては児童・生徒や保護者の安心につながるのだということ、もう一度しっかりと御検討いただきたいと思います。どうかよろしく願いいたします。

○議長（西山宗弘君）

一般質問の途中ですが、ただいまから11時5分まで休憩します。

午前10時57分 休憩

午前11時05分 再開

○議長（西山宗弘君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

その前に、今朝までに報告したものに加えて、岡山放送局の撮影許可をいたしております。報告をいたします。

6番、河上真智子君の一般質問を続けます。

6番、河上真智子君。

○6番（河上真智子君）

では、引き続きお願いいたします。

続いて、デジタル田園都市構想についてお尋ねしていきます。

先日、吉備中央町デジタル田園都市推進協議会の総会が開催され、本年度の事業計画、予算などの説明が行われた後、承認を受けました。これによって、予定された事業が動き出します。

この事業は、新しい技術を取り入れて問題解決を図ることで、人口減少や高齢化に悩む地域に住まう住民が住み慣れた地域で暮らし続けることができるようにする大切な取組なのですが、その有用性の理解がなかなか広がらないことを本当に残念に思っています。

私は看護師としての経験から、医療過疎の問題は住民の命に直結する最も重要な課題の一つと捉えています。3月のデジタル田園都市推進フォーラムで「一歩進んだ中山間地域の救急」と題したパネルディスカッションがありました。しかし、参加者が少なく、がっかりしました。急病やけがで119番に電話をして県南の大きな3次救急の病院に運ばれるまで、そして医師の手に渡されるまでにかかる時間は、平均63分だそうです。1時間以上も痛みや苦しみ、不安の中で耐えるしかないのです。元気なときには何ともない時間

です。しかし、自分ではどうしようもない状況では、つらく、長い時間です。ましてや、一刻を争う状態であったらどうでしょう。そして、それが一番大切な我が子や家族であったらどうでしょう。その思いで一人一人が我が事として考え、理解をしていただきたいと思います。願っています。

病院までの距離が縮められないのであれば、せめて病院に到着してすぐに検査や処置が始められれば、時間は短縮することができます。その際に役立つのが、今使われているきびアプリと共通診察券の取組です。

きびアプリに関しては、現在の登録者数は約2,500人と、町民の約4分の1が登録されています。もちろん、若年層や高齢者の中でスマートフォンを持ってない方も入れている数字なので、徐々に浸透しつつあることが分かります。その中に組み込まれているのは、共通診察券です。前提として、マイナンバーカードと保険証をひもづける必要があります。その情報を使って、氏名や住所、緊急連絡先、通院先や服薬の状況、救急隊員が持つ機械、i P i c s s を使って読み取ることができ、同時に搬送先の病院に情報が伝えられ、すぐに医療処置が始められるように万全の準備をして待つことが可能になります。

今年度の事業計画の中では、さらにこれを進化させ、スマホを持っていない方にも利便性が増すような取組が始まると伺っています。これについて説明をお願いいたします。

○議長（西山宗弘君）

答弁を許します。

大樫企画課長。

○企画課長（大樫隆志君）

それでは、河上議員の御質問についてお答えいたします。

共通診察券の今後の展開についてですが、議員おっしゃるとおり、共通診察券とは、遠隔診療や救急医療において各医療従事者が患者の健康、医療情報等を参照できるようにするためにマイナンバーカードを用いて発行する二次元バーコード形式のIDのことでございます。議員御指摘のとおり、これまではスマートフォンを持たない高齢者や年少者の方などは共通診察券の発行を行うことができませんでした。しかし、今年度より共通診察券に御本人の家族情報を登録する機能とそれぞれに付与されるアカウントを切り替える機能を追加、拡張し、御本人がスマートフォンを持たない御家族のデータを代理登録することが可能となります。これにより、スマートフォンをお持ちでない方や使用に慣れていない方などでも共通診察券サービスを御利用いただけるように体制を整えてまいります。

○議長（西山宗弘君）

6番、河上真智子君。

○6番（河上真智子君）

今、課長の答弁にあったように、スマホを持ってない方、操作に慣れてない方にも有用な取組だと思っています。自分の共通診察券の二次元コードを持つことができるようになれば、一緒に御家族の方と受診する場合には不都合はありませんが、持っていらっしやらない方にはとても有効な取組です。

例えば、独り暮らしの高齢者と連絡が取れないことを心配して御近所の方がおうちに訪問する、すると体調を崩して動けなくなっていた、そこで救急車を呼んだものの、その方の名前とおおよその年齢しか分からない、多分このようなケースは多いと思います。ですが、もしこの方に時々様子を見に来る御家族やその関連の方がいらっしやれば、その方のスマホでまず共通診察券の二次元コードをつくり、コピーを冷蔵庫の扉などに貼っておいていただければ、気がついた救急隊員はすぐに対応できるはずです。もちろん、救急隊員の持っている機械でないと情報を読み取ることはできませんので、見えるところに貼ってあっても全く心配はありません。

今年度の事業とはいえ、運用の開始時期は秋頃かと、少し先になるかと思っています。その前にきびアプリと共通診察券についてしっかりと理解をしていただけるような取組が必要です。この点に関してはどのようなプランをお持ちでしょうか。

○議長（西山宗弘君）

答弁を許します。

大樫企画課長。

○企画課長（大樫隆志君）

御質問にお答えいたします。

初めに、きびアプリの登録者数について申し上げますと、6月4日時点で2,602名の方に御登録いただいております。5月20日に発送しました自治会宛て発送文書において、広報きびちゅうおう6月号と一緒にきびアプリの登録を促進するためのチラシを町内の全世帯に配布させていただきました。さらに、今月は共通診察券の機能を紹介し、理解を深めていただくために、全ての御家庭にチラシを配布する予定でございます。来月以降もチラシの配布や説明会等を通じて、町民の皆さんに継続的に周知を図ってまいります。

町では、現在、きびアプリや共通診察券機能について、イベントでのブース出展や町内

医療・福祉事業者向けの説明会などの対応をしているところですが、今後のチラシ配布等を踏まえ、引き続き自治会や町内医療・福祉事業者等からの要望に応じた説明会の開催や吉備ケーブルテレビを活用した周知、広報の検討も進めてまいります。

○議長（西山宗弘君）

6番、河上真智子君。

○6番（河上真智子君）

積極的な広報活動をお願いしたいと思います。

きびアプリの登録推進と使い方に慣れていただくということは、この事業の基本です。しかし、使いたくても町内各所に点在している電波不感地帯がネックになっている場合があります。急病などで救急車を呼ぶときにも、電波が通じる場所以外では難しいのは大きな問題だと思っています。町としても通信事業者に働きかけを行うなどの対策を取っていても、設備投資の問題、地形的な問題なので、なかなか思うようには解決できないことも承知しています。

最近、空が見えるところであれば衛星を通じて電波がつながるスターリンクというサービスのコマーシャルがよく流れています。これは使えるのではないかと調べてみました。確かにコマーシャルにうそはないのですが、条件もあります。無料サービスなのですが、スマホは指定機種しか使えず、しかもかなり新しい機種に限られていました。また、現時点では緊急速報メールしか対応できず、音声通話や画像データ通信はできないようです。また、車などの移動体でのサービスは、国内では対応していないそうです。主に僻地での工事や災害対応用として自治体や企業が有料で契約をしているケースが多いようでした。

では、令和3年に全町内に整備した光ファイバー網を利用した吉備ケーブルテレビのインターネットサービスはどうでしょうか。ネット環境の充実を図るために約7億円をかけて整備したのですが、現在のインターネット接続サービスの加入者は、直近の数値で賀陽エリアが約63%、加茂川エリアで約50%程度です。せっかく通信環境の整備のために整えたものを十分に活用できていないのかと、残念に思っています。

では、なぜ加入者が増えないのでしょうか。その要因についてはどのようにお考えでしょうか。

○議長（西山宗弘君）

答弁を許します。

大樫企画課長。

○企画課長（大樫隆志君）

御質問についてお答えいたします。

携帯電話の電波不感地帯につきましては、それぞれの携帯電話事業者においてエリア拡張など対応をいただいているところがございます。近年では、議員がおっしゃられるとおり人工衛星を利用した通信サービスも開始されており、通信インフラの強化やこれまで通信環境が整備されていなかった場所での通信の実現が期待されていますが、現状ではサービス内容や料金体系など利用者が期待するサービスとはなっておらず、発展途上の段階であるものと理解しております。

本町においては、吉備ケーブルテレビによる家庭用インターネットサービスを提供中であり、加入率については議員おっしゃるとおり約58%であります。

現在、加入者向けの対策といたしましては、初期加入料及び工事費を町が負担している小・中学生保護者向けのインターネット環境整備補助金や、本年から事業者が始めた新規移住者に対し町が紹介状を発行することにより加入金、引込み工事費を無料、基本月額料金6か月無料とするなど、加入促進施策を事業者と連携して行なっています。また、事業者による加入促進のキャンペーンなども随時行われています。これらを鑑みますと、インターネットを頻繁に活用する世代の方々がいる世帯については加入しているものと思われま

す。今後の加入促進についてですが、本町の高齢化率は43%を超えており、この年齢階層の方々の加入が少ないことが要因ではないかと考えられます。令和6年度からは、独り暮らしの高齢者に対するインターネットの月額利用料金の半額補助制度を実施しています。事業者と連携し、これらの制度も活用しながら今後も加入促進に努めてまいります。

○議長（西山宗弘君）

6番、河上真智子君。

○6番（河上真智子君）

課長の答弁にあつたとおり、いろいろな手法でインターネットを使っていたきたい。今までに学生さんの家庭学習のためにとかいろいろ施策も打っていただけてますし、よそから来られた方にはインターネットは必要な世代の方が多いので、その加入に少し利便を図るという施策もありがたいと思います。

ただ、高齢者がインターネットを使ってコミュニケーションを取りやすくする、または

そういう手法を覚える、そういうことで生活の利便性を向上させるというのがこの目的で、インターネットの月額料金に関して、65歳以上の方の独り暮らしで、しかもきびアプリをインストールするという条件で始まった事業があります。私はこれは結構手を挙げる方がいらっしゃるのではないかなと思ったんですが、先日前日お伺いすると、今のところ1名だったそうです。キャンペーンのことを御存じないのか、それとも使う気がいまいち起こらないのかなとも心配したんですが。たとえ加入しても、後々の費用も少し、半額だったら1,925円、この金額はありがたい金額なんですけど、国民年金だけでお一人で暮らしてるという方には、ふだん使わないのにもったいないのかなと思われる方もいらっしゃるのではないかと感じました。

この条件、せっかくですからもう少し手を加えて、独り暮らしの方だけでなく、もう少し何かいい方法で加入を促すようなことはできないのでしょうか。

○議長（西山宗弘君）

答弁を許します。

大樫企画課長。

○企画課長（大樫隆志君）

御質問についてお答えいたします。

本補助金につきましては、令和5年度に全町民を対象に開催しましたデジタル田園都市推進事業の説明会において町民の方からいただきました御要望等を基に、高齢者の見守り支援を目的として制度化したものでございます。現時点では利用件数が少ない状況ですので、この要因につきまして、要件が厳しく申請が少ないのか、町民ニーズと本当にマッチしているのか等しっかりと分析をし、必要に応じて要件の見直しも含め、今後の方向性を検討してまいりたいと考えております。

○議長（西山宗弘君）

6番、河上真智子君。

○6番（河上真智子君）

先ほども言いましたけど、金額負担という面で言えば、新規に導入するにはそれなりのお金が必要です。吉備ケーブルテレビとか告知放送に加入している方、これは宅内工事だけで済むので約8,000円程度ですが、それ以外の方は、先ほどの移住者の方みたいな特典がない場合には、加入金、工事費を含めて約4万8,000円から5万円以上の負担となります。これに月額料金がかわると、ちゅうちょする御家庭があるのも無理からぬこ

とだなと思います。この点についても吉備ケーブル側と何か負担軽減を検討することはできないでしょうか。

○議長（西山宗弘君）

答弁を許します。

大樫企画課長。

○企画課長（大樫隆志君）

御質問にお答えいたします。

吉備ケーブルテレビ加入に関する費用につきましては、事業者側の経営判断等もございます。町といたしましては、事業者と連携し、先ほど申し上げました加入促進施策や事業者によるキャンペーンなどを通じて引き続き加入促進に努めてまいります。

○議長（西山宗弘君）

6番、河上真智子君。

○6番（河上真智子君）

私は別に吉備ケーブルテレビのコマーシャルを請け負っているわけではないんですけど。個人で別のインターネットへのアクセスができる方はともかく、ほかに代替手段がない方には大切なツールですので、いろんな方策、そして吉備ケーブル側とのいろんな交渉を経て、使いやすく、皆さんに広がることを望んでおります。

それから、あとは公民館に関してですが、各公民館には数年前、既にWi-Fiが使える環境が整備されています。パスワードを入れないといけないのですが、どなたでも使えることになっています。もしかして、これも御存じない方がいらっしゃるのかもしれませんが。でも、高齢の方にはパスワードを入れるというのは難しい方もいらっしゃるので、できればフリーWi-Fiにしていればなとは思っています。

その上、公民館が遠くてすぐには行けない方、自宅にインターネット環境を整備しにくい方への対応と不慮の災害への備えとして、希望される地区には公会堂、そして集会所へのWi-Fi整備はできないものでしょうか。私たちの自主防災組織でも、初期避難は地元公会堂と決めています。公会堂には、告知放送を設置していることも多いと思います。そこにルーターを設置すれば、建物の内外でWi-Fiが使えるはずですが。一部地元負担があったとしても、最も身近な公共施設である公会堂や集会場で利用できるようになれば、個人で負担しづらい方や災害対策として役に立つと思うのですが、いかがでしょうか。

○議長（西山宗弘君）

答弁を許します。

山本総務課長。

○総務課長（山本敦志君）

それでは、御質問にお答えをいたします。

地域の公会堂や集会所にW i - F i の整備ということでございますが、現在のところ、自主防災組織の補助事業の中の防災資機材の整備において、インターネット関連機器の整備が補助対象となっております。自主防災組織を整備する際には、W i - F i の機能も併せて御検討いただければと思います。

しかし、電波の不感地帯もまだあることなどから、要望が数多くあるようでございましたら、集会施設整備事業の中でも検討を進めてまいりたいと思っております。

○議長（西山宗弘君）

6番、河上真智子君。

○6番（河上真智子君）

総務課長が言われたように、多くの方に広く使っていただける。集会所でいろんな集いをやっても、ちょっといろんなことを調べたいというときにもW i - F i が飛んでるほうが便利だよねという話はよく出ますので、御検討のほうをよろしくお願いします。

この質問を行うに当たりまして、先日、吉備ケーブルテレビの営業の方とお話をしてみました。この件に関して、初期の工事費や料金設定については、吉備ケーブルテレビ側でも災害時の対策としても大切なこととして今後社内で検討してくださるとのお返事でした。もちろん、事業者サイドだけでなく、町でも同様に検討し、お話をしていただければと思っています。

また、その方のおっしゃるには、町内に身近な携帯ショップがないことで、格安スマホの相談や契約ができないこと、スマホを持っていても機能が使い切れていないことが導入の障壁になっているのではないかというお話でした。これに関しては、きびコンシェルジュが既に対応しているのですが、これもまた十分に認識されていないのは残念であります。町内に張り巡らされた光ファイバー網がしっかりと活用され、高齢の方にもインターネットが身近なものになることは、単に利便性だけでなく、将来の医療環境の充実に寄与すると思えます。

今後の高齢化と医療環境を考えると、通院が難しくなった方が自宅で同等の医療を受け

られるためには、遠隔診療の導入は必至の課題です。いつまでも住み慣れた場所で暮らし続けていただくためにも、町民の方に自分事として理解していただくとともに、行政側でももっともって工夫しながら理解を高める取組を進めていただきたいと願っています。私たち医療過疎地と呼ばれる地域に生きる者には、きびアプリと共通診察券は緊急時に命を守るための大切な取組です。全ての方が取り残されることがないように、さらなる広報活動の充実をお願いいたします。

以上で質問を終わります。

○議長（西山宗弘君）

これで河上真智子君の一般質問を終わります。

順次発言を許します。

11番、黒田員米君。

○11番（黒田員米君）

11番、黒田でございます。議長の許可を得ましたので、通告書の順番に従いまして質問をさせていただきたいと思っております。

ただ、先ほどこの定例会の休憩時間に大きな動きがあったように聞きます。今回、私は最初にふるさと納税についてお尋ねするようしておりますけれども、先ほど申し上げたように、この休憩時間にかなり大きな動きがあったというのをお聞きしましたので、まずはここで町長のほうにこの場でしゃべれることを報告をしていただければと思っておりますので、まずはよろしく申し上げます。

○議長（西山宗弘君）

答弁を許します。

山本町長。

○町長（山本雅則君）

議員が言われたとおり、本日の10時前に総務大臣よりふるさと納税の指定に関する会見がございました。この会見は、我々が想像だにしてなかった指定を取り消すというものでございます。その会見を知りまして、私は正直驚きました。これまで誠心誠意農業振興をやってまいりました。また、この件につきましては、真摯に丁寧にその理由の説明もさせていただきます。今回のこの決定は、私は遺憾といいますか、残念な判断であったと率直に感じております。改めて、この結果、全国の吉備中央町へのふるさと納税をされた方々、そして返礼品となるお米を提供していただきました町内の農家の方、また町民の皆様

さんに多大なる御迷惑と御心配をおかけしたことを改めて申し訳なく思うところでございます。大変残念でございます。

○議長（西山宗弘君）

11番、黒田員米君。

○11番（黒田員米君）

私のほうも、今回の質問内容については、まだ仮定の話でのお尋ねとしていたものが、これが決定してしまったところの中で、質問内容も急遽ある程度は切り替えていかなければいけないのかなと思っています。

ただ、本町が行っているふるさと納税、この納税事業については、個人としてはいい取組だと私自身は思っています。それを前提として以後の質問に入らせていただきたいと思います。

ではまず、一番最初の質問といたしまして、米の価格上昇とその要因についてお尋ねしたいと思います。

今回、町のほうが返礼品として採用している米の単価、これが昨年度一気に約2倍まで高騰いたしました。それは、今日においてもまだ下がっていないわけでありますけども。町としてはその主要な原因、この辺をどのようにお考えなのか、あるいはどのように分析しているのかをお尋ねしたいと思います。

○議長（西山宗弘君）

答弁を許します。

大月協働推進課長。

○協働推進課長（大月道広君）

それでは、御質問にお答えいたします。

ふるさと納税米づくり農家応援事業で町が返礼品としているお米について、価格高騰により様々な影響をこのたび受けることとなっております。お米については全国的に価格が高騰し、この要因としては酷暑や害虫被害などによる品質低下、南海トラフ地震臨時情報などによる買いだめの動きから始まったとも言われております。また、米の流通に関しての特殊性、例えば集荷業者と卸売業者との相対取引での価格設定であるとか、JAが農家からの購入に当たり、年間の価格を予想して買取価格を出荷時期に先んじてある程度決めてしまうことなど、価格に関して硬直的な仕組みがあることなどによるとの見方もございます。そのほかにも、インバウンドによる需要増加で消費が拡大したことや投機による売

り絞りがあるのではないかなど、様々な見方が挙げられており、当町でもこれらの要因が連鎖し、影響し合うことで価格が高騰化したのではないかと考えております。

○議長（西山宗弘君）

11番、黒田員米君。

○11番（黒田員米君）

ただいま課長のほうが説明してくださいましたけども、多くの要因については、吉備中央町がどうのこうのできる、とてもそういう話では全くないわけです。

そういった中であって、吉備中央町自体では難しいとしても、次の質問になりますけれども、場合によっては国の農政、こちらのほうではひょっとしたらある程度は防ぐことができたのではないかと私自身思っています。例えば例とすれば生産調整の廃止であるとか、資材費の高騰対策の施策等、今回はそういったものがこの価格変動に与えた影響、これが本当に大きかったんじゃないかと私自身思っています。そういった影響を受けながら、典型的な中山間地域である吉備中央町、これをどのように捉えているのか、その辺をお尋ねしたいと思います。

○議長（西山宗弘君）

答弁を許します。

石坂農林課長。

○農林課長（石坂晃則君）

御質問にお答えします。

当町のような中山間地域は、食料生産の場として重要な役割を担う一方、傾斜地等の条件不利性ととともに、人口減少や高齢化、担い手不足、荒廃農地の発生、鳥獣害被害の発生といった厳しい状況に置かれております。

国の農政では、条件の不利を緩和し、農業の多面的機能の維持、発揮を図るため、日本型直接支払制度、多面的機能支払制度、中山間地域等直接支払制度、環境保全型農業支払制度が実施されている一方で、経営所得安定対策事業により米からの転作に対し交付金を交付しております。生産過多になると米の販売価格が下がることから、多くの地域で国が示す国の需給見通しを参考に需要に応じた生産となるよう、個々の農家の判断により作付面積を決定されております。令和6年産につきましては、昨年度と同程度の需要が見込まれておりましたが、気象条件や社会情勢の影響等により需給のバランスが崩れ、米の価格に大きな影響を与えたものと考えます。令和7年産につきましては需要が高まっており、

増産が求められる状況となっておりますが、一時的なものなのかどうかの判断が非常に難しく、農家の経営に直接的な影響を与え、継続的な営農にも大きな影響を与えるものと危惧しております。

いずれにいたしましても、今後の国の農政や米の需給のバランス等に注視をしてまいりたいと存じます。

○議長（西山宗弘君）

11番、黒田員米君。

○11番（黒田員米君）

今、課長のほうから説明がありましたけれども、国の動向が我々のような小さな自治体には大きく影響してくるというのがありありと分かるところです。ですから、国のほうには、我々のような弱小自治体が夢を持っていけるように農政をしっかりとっていただきたいと思っております。

次に入りますけれども、今回、総務省の調査と今後の動向について聞きたいと思うんですけども。今回、総務省のほうから聞き取りに来られました。それについて、町のほうがどのような説明を行なって、今後どのような対応という部分なんですけど、このときはまだ先ほどのように確定していませんでしたので、今は確定をしてしまいましたから、10時に決まって、じゃあどうしようというのはまだ物は決まってないと思いますけれども、ある程度思われるところがあるようであれば、ここでお示しいただきたいと思えます。

○議長（西山宗弘君）

答弁を許します。

大月協働推進課長。

○協働推進課長（大月道広君）

それでは、御質問にお答えいたします。

今回のふるさと納税、米づくり農家応援事業に関する総務省からの調査についてですが、令和7年4月10日に米の調達費用に関して吉備中央町ふるさと米出荷農家奨励金の制度目的や実施状況などについて報告の求めがあったことから始まり、総務省の方がヒアリングに訪れるなど、これまで複数回報告を求められ、その都度、町としての事業に取り組む趣旨などについて回答させていただいております。

奨励金については、種子更新、生産性向上のための土壌改良、適切な栽培管理などの特

別な出荷要件を実施してもらい、農家の先導的立場で農業振興の原動力となってもらうことを願い、行なっておったものでございます。

また、頑張る農家応援事業農機具購入費補助ですが、それは有害鳥獣対策事業補助金などと併せた中山間地の米作り、農地保全を進める上での農業振興対策の一つとして位置づけて取り組んでおり、交付規則を設け実施を行なっているものであることなどを詳しく説明させていただき、また寄附金額や米の調達に関わる費用などについても説明を行なってきました。

町としては、総務省の求めに対し、全力で誠心誠意真摯に報告をさせていただいておりましたが、今回、指定団体取消しの処分がなされ、2年間ふるさと納税制度による寄附金を受けられなくなってしまい、町民の皆様方をはじめ、関係者の方々に大変申し訳なく無念の気持ちでございます。

○議長（西山宗弘君）

11番、黒田員米君。

○11番（黒田員米君）

奨励金の趣旨というものが、なかなか我々の中山間地域の思いと霞ヶ関の考えに大きな乖離があったのかなど、そのように感じているところであります。

次に、次の質問、考えたくはないが、仮にと打っていますけども、これは決まってしまう。ふるさと納税の指定取消しとなった場合につきましてお尋ねしたいと思います。

今回、町財政や農家支援に与える影響、このあたりをどのように見積もっているのか、またその対策についてをお尋ねしたいと思います。

○議長（西山宗弘君）

答弁を許します。

石坂農林課長。

○農林課長（石坂晃則君）

質問にお答えします。

これまでの実績としましては、米づくり農家応援事業に関する御寄附を財源とした基金の現在高はおよそ11億円となっております。この基金を活用して様々な農業振興を行なっている当町にとりましては、財政的に大きな痛手となるものでございます。そのため、この寄附金から得た基金を活用した補助事業等につきましては、財源を失いかねないた

め、町で取り組んでおります各種事業との兼ね合いなど町全体の事業を鑑み、今以上に毎年度の判断が必要になるなど、今と同様の農業振興施策を変わりなく継続していくことはかなり困難な状況が予想されますが、必要な事業を継続できるよう、知恵を振り絞って農業振興を図りたいと考えております。

○議長（西山宗弘君）

11番、黒田員米君。

○11番（黒田員米君）

今回の取消しによりまして、多分、各担当課の仕事の量というのは膨大な数に上っていかうかと思えます。そのあたりもお尋ねしときたいんですけども。それぞれの担当課において、通常業務に加えまして膨大な電話でのクレーム対応であるとか、これからの事務作業、これに現在他の課からの応援なんかを得て何とか乗り切ってるんですけども。今後、取消しが決まった後に、その対応について各担当課においてはマンパワーが不足するということはないのかどうか、そのあたりをお尋ねをしたいと思います。

○議長（西山宗弘君）

答弁を許します。

大月協働推進課長。

○協働推進課長（大月道広君）

今回の総務省の調べに対する対応、また令和6年度の返礼品不足に対することについて、班長以下、会計年度任用職員さんを含め全員が初めての境遇、そして大変困難であった事務にみんなで丸となって取り組んでいただきました。職員に対してはありがたく、感謝の気持ちしか思い浮かびません。結果としてふるさと納税の指定団体取消しという無念の結果となってしまいましたが、この職員たちがいてくれれば、きっとまた将来に向けて挑戦し続けることができると私は信じております。

今回の事務に当たっては、各課からお手伝いをいただきました。今後も大変な事務が次々と控えておりますが、引き続き各課から助けを得られるのであれば、今の課の職員数でも乗り切っていけるものと感じております。

○議長（西山宗弘君）

11番、黒田員米君。

○11番（黒田員米君）

今回のこと、これからのまだ予測でしかありませんので、担当課の皆さん方が身体的な

疲労あるいは精神的な疲労、これが最も大きいと思うんですけど、その中で倒れていかなないように、早め早めに状況を上のほうに上げていただきながら対応策を練っていけるように、我々議会としてもしっかりその辺は応援していきますので、よろしくお願いをしたいと思います。

では、次の4番として、この辺から私自身も熱が入るんですけども。制度改善に向けた国への提言の意思についてお尋ねしたいと思います。

現場の実情を踏まえて、総務省や農水省に対して地域が持続可能な形で地域住民に対して効果あるふるさと納税制度として運用できるような制度改善の提言を他の自治体と共に行う考えはあるかということでお尋ねをします。

もう今決まってしまったので、もう少し私の思いを伝えていきたいと思います。

今回のふるさと納税は、町の財政を支える大きな柱であると同時に、地域農業を守り、まちの価値を全国に発信する重要な手段だと私は思っております。この制度の枠組みによって地域の実情や思い、これが切り捨てられるようなことがあってはならないと強く思っております。この機会に制度と現場との乖離を正直に国に伝え、町の思いと同時に、町民皆さん方の思いを主体的に届けて改善を働きかけていくこと、この姿勢が私は今の吉備中央町には必要ではないかなと思いますけれども、このことについての執行部のお考えをお聞かせください。

○議長（西山宗弘君）

答弁を許します。

山本町長。

○町長（山本雅則君）

これにつきましては、取消しという最悪な結果になりました。私もふるさと納税そのものは、地方にとっては重要な制度だと思っております。そういう意味では、つくっていただいたことに対して感謝もしております。ただ、この制度そのものに対しては、改善すべき点が多々あると思います。

それは、地方としては、その財源を使って地方の課題を解決するという大きな目的を持って少なくともやっております。その地方の現状をしっかりと見ていただきたい。そして、例えば過度な競争になるのであれば、例えば上限を決めるとかいろんな取組ができると思います。そのような制度設計をもう一度見直していただきたいと。1番は、その地域地域の実情をしっかりと国においては把握していただいて、それが間違ったことをやって

るんだったら、しっかりと指導していただければいいです。しかし、それぞれが頑張っって課題解決に向かって大切なふるさと納税制度を活用させていただいてます。そのことを十分に御理解をしていただきたいという思いが強いです。できれば、農家の方、また町民の声を聞いていただきたいような気持ちでいっぱいです。

○議長（西山宗弘君）

11番、黒田員米君。

○11番（黒田員米君）

いろんな思いが私の中でも駆け巡るわけなんですけれども。今回の取消しという部分を、先ほど聞いた中で私の思いをここで話をさせていただきたいと思います。

これはもしもということがあったらということで控えとしてつくった文面ですので、若干違うかも分かりませんが、お話をさせていただきます。

今回、総務省が決断されたわけなんですけども。実は、総務省が掲げるふるさと納税の理念、これがホームページ上、ポータルサイトに上がっております。その中には、次のように記されております。

納税者と自治体がお互いの成長を高める新しい関係を築いていくこと。自治体は納税者の「志」に応えられる施策の向上を。一方で、納税者は地方行政への関心と参加意識を高める。いわば、自治体と納税者の両者がともに高め合う関係です。一人ひとりの貢献が地方を変え、そしてより良い未来をつくる。全国の様々な地域に活力生まれることを期待しています。このように書かれております。

私は、吉備中央町の今回のふるさと納税、この総務省が示す理念を忠実に体现しているのではないかと私自身は思っています。中山間地域に暮らす多くの農家は、高齢化や後継者不足の深刻化により、あと数年しか米作りができないんじゃないか、今年で農業をやめようかといった悩みを抱えて今も農作業をしております。それでも、先祖代々守ってきた農地を手放すことなく、小さな圃場で日々汗を流し、ふるさと納税の返礼品として丹精込めたお米を今回も全国に届けてくださっていました。私は、こうした農家の皆さんに来年も農業を続けていただきたいと心から願っており、そしてそれを支えるためにこそ、ふるさと納税という仕組みがあるのだと信じています。だからこそ、今回の支援費なんですけれども、農家への応援の気持ちが込められているのではないかなと、このように考えます。水田の管理や土づくりに力を注ぎ、再びおいしいお米を育ててほしい、そんな願いがこの根底にあります。そのための支援金であったと私は考えております。

中山間地域の水田は単なる農地ではありません。異常気象による災害を抑える役割も担い、地域の安全と未来を守る上でも欠かせない存在だと思います。農地を守り、おいしいお米を作り続けることは、単に田植や稲刈りをすれば成り立つものではありません。水の確保のために取水施設の管理、肥料や堆肥を使った土づくり、そして何度も繰り返さなければならない草刈り作業など、膨大な労力と費用が必要かと思えます。特に中山間地域では、草刈り作業が急斜面や足場の悪い場所で行われることも多く、苛酷で危険を伴います。実際、私自身も先日草刈り作業中に滑落して骨折というような経験もしたところがあります。

さらに、農機具、維持費など、負担は年々増加しております。吉備中央町のふるさと納税の支援金は調達品というものではなく、こうした現実に寄り添い、農業を未来へつなぐ投資と私は考えています。まちの未来を支える大切な投資であると確信しております。私自身はそのように考えますが、いま一度、吉備中央町、特に町長のお考えはどのようなか、お尋ねしたいと思います。

○議長（西山宗弘君）

答弁を許します。

山本町長。

○町長（山本雅則君）

黒田議員と同じような思いでございます。この奨励金は、あくまでもいろんな条件をつけてお出ししております。例えば種もみの更新であったりとか、堆肥を入れるとか、そうやってみんなでおいしい米を作って、何とか耕作放棄地にならないように頑張ろうという意味が込めてあります。それを違った考え、違った見方で物事を判断されて、この結果になっております。心底のこの目的というのを中山間に来て知っていただきたいです。私は、吉備中央町のやってる制度に自信を持っております。ですから、全国の中山間地域でこのような取組をされたら、耕作放棄地、また後継者不足で悩んでる方々も、少しはもう一年作ろう、もう一年作ろうという気持ちで国土保全にも役立つ制度になると思えます。そのような制度になっていただきたいです。

○議長（西山宗弘君）

11番、黒田員米君。

○11番（黒田員米君）

中山間の思いを何らかの形で国のほうへ届けていきたいと思えますので。多分、我々議

会の議員の皆さん方も同様の考えではないかと思しますので、執行部、議会、そして町民の皆さん方の思いをどこかの段階では国のほうへ届ける機会をつくっていただきたいと思います。

そして、残念ながら今回2年のペナルティーというような形なんですけども、このペナルティーが解除される2年後を見据えて、吉備中央町のふるさと納税が今よりもさらによい形で再スタートできるよう、準備と見直しの期間とすべきと考えますが、そのことについてお考えをお聞かせください。

○議長（西山宗弘君）

答弁を許します。

山本町長。

○町長（山本雅則君）

先ほど申しましたとおり、ふるさと納税制度というのはありがたい制度だと思っております。しっかりとこの2年間、我々としても振り返って検証する必要もございますし、それから前に向かってより体制を整えるということも必要だろうと思っております。この2年間、今まで以上に思いを込めたふるさと納税制度の活用をしていこうと思っております。ただ、2年間は農家の方、また今まで納税していただいた方々には御迷惑をおかけします。ただ、その御迷惑に恩返しができるように、それ以上強い体制を整えて、また復帰に向けて頑張っていこうと思っております。

○議長（西山宗弘君）

一般質問の途中ですが、ただいまから午後1時まで休憩します。

午前11時56分 休憩

午後1時00分 再開

○議長（西山宗弘君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

11番、黒田員米君の一般質問を続けます。

11番、黒田員米君。

○11番（黒田員米君）

それでは、大きい質問の2番目に入らせていただきたいと思います。

P F A S問題についてお尋ねをしたいと思います。

先日、健康調査の説明会、地域への、その会場において町長は子どもに対する調査、こ

これは継続的に行なっていきたいというふうな回答をされたかと思えますけれども、現時点において、今分かるというか、今ある程度こういう方向でいこうということで結構ですので、話せる部分でお示しいただきたいと思えます。

○議長（西山宗弘君）

答弁を許します。

山本町長。

○町長（山本雅則君）

それでは、黒田議員のPFASに關係する子どもへの対応ということでございますが。これにつきましては、先日の説明会では、成人、子どもを問わず、血液検査実施に関する要望の中で回答をいたしました。次回のPFAS血中濃度検査の実施については、少し成人と子どもを分けての検討もしっかりしていきたいと考えております。

そうした中で、18歳未満の子どもの場合は、特定健診等々の健康診査を受診する機会がございません。そうした意味では、PFAS血中濃度検査とは別に、また定期的な肝機能検査やコレステロール検査をはじめとした生化学検査を実施できないか、そのようなことを今検討しているところでございます。

○議長（西山宗弘君）

11番、黒田員米君。

○11番（黒田員米君）

将来を支えてくれる子どもたちの部分になりますので、今の生化学検査が前向きにできるような方向で早めに内容を詰めてもらいたいと思えます。

では続いて、2番目に入りたいと思えます。

住民を含めた協議会についてお尋ねしたいと思えます。

近日中に設置見込みの地域住民の参加を含めた有機フッ素化合物に関する対策委員会を設置する予定と、このように聞いておりますけれども、その会の設置の目的、あるいは人数、あるいはそこへ参加される皆さん方、それから年間を通して開催の日数がどの程度のことを今は予定されているのか、そういったあたりを御説明いただきたいと思えます。

○議長（西山宗弘君）

答弁を許します。

檜寄水道課長。

○水道課長（檜寄秀徳君）

それでは、御質問にお答えいたします。

近日中に設置見込みの地域住民を含めた有機フッ素化合物に関する対策委員会についてでございますが、設置目的といたしましては、当該事態の課題解決に向けた地域住民等の意見を求め、地域住民等の健康への影響及び環境等についての対策に資するため、また情報提供の場としての目的で設置するものでございます。

委員の人数、所属についてでございますが、円城地区の町議会議員、民生委員、それから自治会の代表者、それからその他町長が適当と認める者で、委員15名以内での構成で考えておるところでございます。

開催日、日数等につきましては、委員会の初会合で委員の方々からの御意見をいただきながら開催頻度については決めてまいりたいと考えております。

○議長（西山宗弘君）

11番、黒田員米君。

○11番（黒田員米君）

このことは、私もこの場で何度もお願いをした中で、いよいよ地域の皆さん方の声を届けられる場ができたということはあるがたいかなと思っています。そして逆に、先ほど課長の話の中にもありましたけども、今の状況をそれぞれ地域へ持ち帰っていただく、そういった部分でもとても重要な会になろうかと思っておりますので、いい形で運営できるようによろしくお願いしたいと思います。

それでは、引き続いて3番のほうの国によるボーリング調査についてお尋ねしたいと思います。

これは、昨日、ちょうど円城の福祉センターに行く用事がありまして、行きましたら、その駐車場にボーリングマシンを積んだトラックが止まっておりました。それがこのボーリングに関係するのかどうか分かりませんが、いよいよボーリング調査が始まるのかなという感じは受けたところであります。

今回は、原因物質を置いていた現地において国でボーリング調査を行なっているというのが、そういうふうは何回か掘ったようなことも聞くので、行なっているという表現ですけれども、行なっているが、これまでの動きと今後の動きについて、これも今話せる、話せんがあると思いますけども、ここで表へ出してもいい部分をまずは説明をお願いしたいと思います。

○議長（西山宗弘君）

答弁を許します。

宮田住民課長。

○住民課長（宮田慎治君）

それでは、御質問にお答えいたします。

国によるボーリング調査のこれまでの動きと今後の動きについてとの御質問でございますけれども。

実証事業の施工範囲として想定している約500平米の範囲内とその周辺を対象に、汚染実態を把握するためのボーリング調査を実施しているところと承知しております。詳細については、調査検討中であると聞いております。

○議長（西山宗弘君）

11番、黒田員米君。

○11番（黒田員米君）

このことについても、国のほうが今後どういう形でデータを公開していくのかというのは私も分かりませんが、もし国のほうからこういうふうなデータがまず出ましたというのが吉備中央町のほうももし得られるのであれば、得ていただきたいなと思います。

というのが、ボーリングの深度によって、どの地点のところがPFASが高いのかとか、この地点がめちゃ高いというのが、今度はかなり本数が多くなると思うので、立体的にこの部分が汚染の濃度が高いなというのが分かるかと思いますが、国とともに吉備中央町もその状況というのは情報共有しとくほうがいいのかなと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

それから、新しい除去の方法というものが定まったのであれば、早く手をつけていただくということがありがたいと思います。

それと、もう一つだけお願ひしたいんですけども、ボーリングするに当たって、現在現場ではブルーシートを敷いて表面水がなるべく浸透しないようにという手はずをしてあります。ボーリングするに当たって、もしも今のブルーシートを何枚か取るということがあるのであれば、なるべくならボーリングする位置のみでやっていただけるように、極力表面水が地下へ浸透して今あるPFASが下流へ流れ出ることが少ないように配慮していただくように国のほうへも求めていただきたいと思います。

それでは、4番目になりますけども、PFAS問題について、自治体間での連携についてお尋ねしたいと思います。

今、岡山市のほうでも、河川からであったりとか、山林の中からPFASというものの検出が認められてるといふか、報告があるようにお聞きしております。こういった形の中で、自治体間の情報共有あるいは連携体制の必要性が私は高まっているのではないかと考えています。各自治体同士が連携した上で、県あるいは国であったり、そちらのほうへ処理体制や統一的なデータを取る方法、解析の方法であったりデータを取る方法の確立、それから検査方法の統一化などを働きかけるべきではないかなと私自身は思いますけども、こういったところのお考えを聞かせていただきたいと思います。

○議長（西山宗弘君）

答弁を許します。

山本総務課長。

○総務課長（山本敦志君）

それでは、お答えをいたします。

この有機フッ素化合物につきましては、近年、全国的な問題として取り上げられており、自治体間の連携の必要性については、認識をしているところでございます。

しかしながら、各自治体における要因や状況が異なることや、現在環境省が主体となって調査や対策事業に取り組んでいただいていることもあり、環境省の取組の動向を注視していくことが重要であると考えております。

現時点では、自治体間での連携を基にした国や県への働きかけについては具体的な計画はございませんが、状況に応じまして推移を見守りながら必要に応じて柔軟に対応してまいりたいというふうに考えております。

○議長（西山宗弘君）

11番、黒田員米君。

○11番（黒田員米君）

今、課長が言われたのもそうだと思うんですけど、逆に言えば検査方法等が確立していないからこそ、今、日本全国がこういうふうな形で検査をやろうとか、サンプリングを取るならこういうふうなやり方で取りましようというのを最初に痛い目に遭ってるこの吉備中央町がある程度国に示して、国がそれを基準としてほかの場所でも同様の形で検査方法を合わせましようというふうにしたほうが、今後のデータが均一化してくると思うんです。出处進退が一緒でないと、私のところは私のところで取りました、私のところは私のところで検査しましたとかと言ってくると、その信頼性に疑問符がついて、話がまた元に

戻っても困りますので、ぜひ統一した形での検査方法、それからサンプリングの方法を国のほうへ提言していただきたいと思います。

それでは、引き続き5番目として、国への早期の産業廃棄物指定の要望についてお尋ねしたいと思います。

P F A Sの吸着後の活性炭を適正に処理するに当たっては、マニフェストの設定などによる適正な搬出及び保管、それから併せまして高度な焼却施設や専門処理業者が必要であり、現行制度の枠内では個々の自治体間においては処理の格差が生じるおそれがあるかと私は思っております。吉備中央町として、こうした廃棄物を早急に国のほうに産業廃棄物に指定するよう要望を行う必要が私はあると思うんですけども、そのあたりについてお考えをお聞かせください。

○議長（西山宗弘君）

答弁を許します。

宮田住民課長。

○住民課長（宮田慎治君）

それでは、御質問にお答えいたします。

P F A S吸収後の活性炭を適正に処理することについて、議員おっしゃるとおり適正な対応は重要なことと承知しております。本事案等の発生を受け、令和7年3月26日に環境省の水大気環境局環境管理課及び環境再生資源循環局廃棄物規制課から「P F O S等を含む水の処理に用いた使用済活性炭の適切な保管等について」という通知が各都道府県や各政令市に出され、その中で使用済み活性炭の適切な保管や使用済み活性炭を廃棄物として処理する場合の適正な処理方法などについて、再発防止や適正処理の観点で使用済み活性炭保管事業者に対する注意喚起が図られたところでございますけれども。議員おっしゃるとおり、今後吉備中央町のような事例が起きないように、再発防止目的という観点から、岡山県を通じて国に要望することを検討研究していきたいと思っております。

○議長（西山宗弘君）

11番、黒田員米君。

○11番（黒田員米君）

そのあたりは、吉備中央町が率先してという言い方はおかしいかも分かりませんが、他の自治体が同様の苦しみにこれからならないように、国のほうはP F A Sというものは体に悪いということを既に認めてるわけですね。認めてるものを一般廃棄物として

管理はしましよとほ言つてますけども、私は産業廃棄物の指定をしてきちんとした管理あるいはきちんとした処理、これが必要かと思ひますので、国のほうへ要望をお願ひしたいと思ひます。

次に入りたいと思ひますけども、国への人的あるいは財政的支援についてお尋ねします。

本町のような弱小自治体では、人的、財政的にも限界がある中で対応が求められています。町独自では困難なPFAS対策について、岡山県や近隣町村との共同処理や要望活動を含め、今後どのような体制で対応を図っていくかをお尋ねしたいと思ひます。

○議長（西山宗弘君）

答弁を許します。

山本総務課長。

○総務課長（山本敦志君）

国への人的支援や財政的支援ということでございますが、おっしゃるとおり弱小な市町村でございます。もちろん今まで以上に支援が受けられるにこしたことはございませんが、先ほども申し上げましたように、現在環境省による事業がスタートしたばかりということもありまして、現時点ではその動向を見守りながら、必要に応じて連携を取りながら対応をしてまいりたいと考えております。

○議長（西山宗弘君）

11番、黒田員米君。

○11番（黒田員米君）

現在のボーリング調査と並行しながらということでしょうけども、いずれにしてもこれは何らかの形で国に言わざるを得ないと思ひますので、どこをスタートとするかは別としても、国のほうへはお願いをしてもらいたいと思ひます。我々、多分議員の皆さん方も異論はないと思ひますので、協力するところはさせていただきますので、よろしくお願ひします。

では、7番のほうで原因企業の動向についてお尋ねします。

原因企業に対して損害賠償請求を現在行なっておりますけれども、その後、町あるいは財産区、さらには原因企業、それぞれの動向というのが我々にはなかなかつかめないところがあるんですけども、どのような動きになっているのか、これも今の段階のことで結構ですからお話しいただければと思ひます。

○議長（西山宗弘君）

答弁を許します。

山本総務課長。

○総務課長（山本敦志君）

町からの賠償請求につきましては、相手企業の代理人弁護士と当方の代理人弁護士との間でやり取りが行われているところでございます。内容等につきましては、申し訳ございませんが、現在交渉中ということもあり、詳細については控えさせていただきます。

円城財産区の動向につきましては、以前と変わりなく、原因企業への土地の原状回復について要望を行なっていると聞いております。

○議長（西山宗弘君）

11番、黒田員米君。

○11番（黒田員米君）

現在のところ、動きがあまりないということですよ。これを動きがないから報告をしないのではなくて、動きがないということを報告してほしいというのが地域の思いなんです。ですから、先ほどお尋ねした有機フッ素化合物に関する対策委員会、今後できますけれども、まずはそちらのほうへ今後は今の動きがないということを説明をしていただく、そしてその会がそれぞれの団体へ持ち帰ってまた報告をしていくという形で、途中経過を地元のほうへ流していただけるようによろしくお願いをしたいと思います。

ごめんなさい。その辺がもう既に8番へ入ってしまったんですけども。同様に、今水道課さんのほうが新しい配水管を布設してくださっておりますけれども、そういったことも含めて今の協議会のほうへ報告をして、地域にそのあたりを知らしめるべきではないかと私は思うんですけども、いま一度そのお考えをお尋ねしたいと思います。

○議長（西山宗弘君）

答弁を許します。

檜寄水道課長。

○水道課長（檜寄秀徳君）

御質問にお答えいたします。

関係住民への情報提供が滞っているのではないかという御質問ですが、町からは令和5年12月から月に1度広報紙の配布に合わせ、対策本部の各部会からのお知らせということで、関係住民の方へ情報提供を行なっておるところでございます。

主に健康相談部会からは、血中濃度検査等の結果のお知らせ、住民説明会の開催案内、それから説明会終了後には説明会で話された内容等をまとめ、掲載しておるところでございます。

また、給水部会からも、円城浄水場の水源を岡山県広域水道企業団からの取水に100%切り替える工事の進捗状況、また入札が行われ、業者が決定した際には、入札結果等新鮮な情報を滞りなく掲載しておるところでございます。

○議長（西山宗弘君）

11番、黒田員米君。

○11番（黒田員米君）

そのあたり、今、広報紙で広報しているということなんで。今度できる会のほうへ、こちらのほうへも積極的に情報提供をやっていただきたいと思います。

ごめんなさい。時間がないんではしょっていきますけども。

次の大きい質問に入ります。

小学校の跡地利用の現状についてお尋ねします。

旧小学校の跡地利用について、各地域においてはそれぞれ活用方法の検討を始められているようにお聞きするんですけども、その現状でこの場所で話せる部分でお示しいたきたいと思います。

○議長（西山宗弘君）

答弁を許します。

大樫企画課長。

○企画課長（大樫隆志君）

黒田議員の御質問についてお答えいたします。

小学校跡地利用についてでございますが、各地域において跡地活用に関する要望や提案を寄せていただいておりますが、地域によって様々な考え方や進め方があるため、全ての跡地活用を一元的に進めることは難しい状況でございます。各地域の活用方法の検討状況につきましては、昨年12月の議会全員協議会で御説明させていただきました内容から特に変更はございません。自治会や有志組織が中心となって検討を重ねておられたりといった状況であると把握しております。

今後とも各地域の特性を尊重しながら、地域住民や関係者との対話を重ねていくことが重要だと考えております。地域ごとのニーズを把握し、それに応じた柔軟な対応を行うこ

とで、より効果的な跡地活用に取り組んでまいりたいと考えております。

○議長（西山宗弘君）

11番、黒田員米君。

○11番（黒田員米君）

現在、それぞれの地域でそれぞれの考えの中、進んでいるというふうに理解をしているところです。

では、もう一つ質問として伴走支援と財政的支援についてお尋ねをしたいと思います。

まず、旧小学校の利用活用の協議、これが常設する場所はとてもいいんだと思うんですけども、場合によってはなかなかその話が進まないというところについては、町としてはどのような対応をお考えなのか、お尋ねしたいと思います。

○議長（西山宗弘君）

答弁を許します。

大樫企画課長。

○企画課長（大樫隆志君）

御質問にお答えいたします。

町では、跡地利活用について自治会や有志組織へのヒアリングを行うなどして、地域の皆さんの思いや考えをしっかりと把握することに努めることとしております。そこで地域として具体的な活用案がないということでございましたら、令和5年度に策定しました学校跡地活用基本方針に基づいて、民間の事業者等の活用も視野に入れた公募型プロポーザルを実施する予定でございます。

○議長（西山宗弘君）

11番、黒田員米君。

○11番（黒田員米君）

それでは、逆に地域のほうがこういうアイデアを出して頑張っていこうというところをお尋ねしたいと思います。

それぞれの地域が旧小学校跡地について新たな利用活用を計画する中で、町としては伴走支援として地域住民にとっていかにメリットが生まれるかを考えながら情報共有を図り、その地域のアイデアを実現することが必要と思われまますけれども、これについての町のほうの考え方をお尋ねしたいと思います。

○議長（西山宗弘君）

答弁を許します。

大樫企画課長。

○企画課長（大樫隆志君）

御質問についてお答えいたします。

基本的な跡地活用方法につきましては、先ほど申し上げました学校跡地活用基本方針に基づいて地域住民のニーズをしっかりと酌み取っていく所存です。現在、人口減少社会に突入しておりますので、持続可能な取組に主眼を置きつつ、財政にも恩恵を享受できるような広い視野で情報収集に努め、地域の特性や住民の意見を反映させた形での活用策を検討してまいります。

○議長（西山宗弘君）

11番、黒田員米君。

○11番（黒田員米君）

地域の皆さん方がそれぞれアイデアを持ち寄りながらそれぞれの跡地を活用していくというのが一番望ましいと思いますので、その下支えをしっかりと行政としてはしていただきたいと思います。

そういった中で、3番目の質問に入りますけども、それぞれの皆さん方がそれぞれの跡地利用を考えられて動き始めたと仮に想定すると、最も重要になってくるのが、それぞれの新しい取組へのスタートアップ費用が私は大切になってくるかと思えます。よって、このスタートアップ費用を補助年数を定めるか、あるいはサンセット方式のように徐々に減らしていくか、今後決めてもらえればいいんですけれども。財政的支援を積極的に行い、地域住民にとって最も望ましい利用活用を積極的に支援あるいは後押しすべきじゃないかと思えますけども、お考えをお聞かせください。

○議長（西山宗弘君）

答弁を許します。

大樫企画課長。

○企画課長（大樫隆志君）

御質問についてお答えいたします。

閉校となった小学校の中には、建築から30年以上が経過し、老朽化が進んでいる施設も存在します。このような状況は、学校跡地の活用において大きな障壁となっているケースもあります。学校跡地の有効活用は全国的な課題になっており、現在、国を挙げてこの

問題に取り組むべく、各省庁から跡地活用に関する様々な補助制度が創設されております。町といたしましては、国や県の補助制度を活用することも検討しつつ、さらに地域住民が主体となって地域全体で推進する取組について、他の地域でも支援を行なっております。いきいき拠点運営交付金事業についても考慮しながら必要な支援を行うことで、地域住民が安心して利用できる施設やサービスの提供を目指し、持続的かつ実現可能な跡地活用を推進してまいりたいと考えております。

○議長（西山宗弘君）

11番、黒田員米君。

○11番（黒田員米君）

このあたりの費用の負担、スタートアップのときには光熱費すらも母体が持ってませんから、そのあたりを下支えをするというのは必要かと思えます。

今、課長のほうのお話、ちらっとあったんですが、いきいき交付金、多分想像でごめんなさい、新山がやっているとかなと思うんですけど。新山の皆さん方のところは、かなり吉備中央町は頑張っていて、ここで金額は言いませんけども、かなり出ていると思うんですけども。数字ぐらいのものはそれぞれのところへ補助していただけるといいかなと思うので、よろしくをお願いします。今の話で元気が出ましたので、よろしくをお願いします。

では引き続き、大きい④に入っていきたいと思えます。

公共交通についてお尋ねをしたいと思えます。

今回、多くの同僚議員が公共交通の質問をしたわけなんですけども、私は目線が一個は違うんですけども、デマンドタクシーのアプリ予約についてお尋ねしたいと思えます。

現在、デマンドタクシーをアプリ予約するときには、毎回、個人の名前とか乗る人間さんとか、それからどこへ行くか、これを毎日使う人は毎日入れなきゃいけません。このあたりが記録が残って、前と同じものであれば同じものを何か選べば前回と同様とかというようなものができれば、かなり利便性が上がるんじゃないかと思えますけども。その利便性が上がるということは、利用率の向上につながるのではないかと思えますけども、このことについてどのようにお考えかお尋ねしたいと思えます。

○議長（西山宗弘君）

答弁を許します。

山本総務課長。

○総務課長（山本敦志君）

それでは、御質問にお答えをいたします。

デマンドタクシーのアプリ予約についてでございますが、ログインについては毎回入力をいただきますけども、この点につきましてはセキュリティー面でやむを得ない仕様となっておりますので、御理解をいただければと思います。

また、入力情報につきましては、乗車場所、降車場所ともに履歴情報が表示される仕様となっておりますので、そちらを御活用いただければと思います。

アプリの使い方で御不明な点などがありましたら、お気軽に総務課へお問合せをいただきますようお願いを申し上げます。

○議長（西山宗弘君）

11番、黒田員米君。

○11番（黒田員米君）

今、課長が言われたんですけど、セキュリティーの関係で毎回のログインが必要という部分なんですけども。実は私、これ分けられないのかなというのを1回インクルーシブさんのほうへも話をしたわけなんです。セキュリティーがきちんとかからなければいけないものと、それからこれが仮に外へ漏えいしてもそんなに人生が変わるほどじゃないというものであれば、簡単にそこへたどり着く方法のほうが、私は利便性が高いと思うんです。ですから、そのあたりの一番最初のゲートを2つに分けて、共通診察券とか、それからひよっとしたカードが使えるようになったりとか、そういうものについてはセキュリティーの側、それからもっと簡単な話のところは、例えば健康チェック、自分の今日の御機嫌をどう測るかとか、そういうものは別にセキュリティーをあまり難しくしなくてもいいんじゃないかと思います。それよりも簡単にぽんと入れて、それこそ顔認証で入れて、そのまますぐ読み込めるほうが私は利便性が高いと思うので、そのあたりも検討をしていただきたいと思います。

それでは、最後になりますけども、定期券と回数券についてお尋ねします。

これらは同僚議員も今回話を出しておりますけども、へそ8あるいはデマンドへの定期券や回数券を導入することで利用者の増加を図るべきではないかと思っておりますけども、お考えをお尋ねしたいと思います。

○議長（西山宗弘君）

答弁を許します。

山本総務課長。

○総務課長（山本敦志君）

定期券、回数券の導入による利用者の増加というふうな御提案でございます。今日も御指摘をいただきましたように、公共交通の仕組みの複雑化、それから運転手の高齢化による人員不足など様々なことが問題となっております。また、現在、デマンドタクシーの急激な利用者増加によりまして、利用者全ての要望にお応えすることが難しい状況になっていることやへそ8バスの本格運行などを含め、公共交通全体の見直し、再編が必要になってきております。その見直しの中で定期券や回数券の導入も視野に入れ、持続可能な公共交通を模索していきたいと考えております。特に定期券につきましては比較的利用しやすいものだと思いますので、前向きに検討してまいりたいというふうに思っております。失礼しました。回数券でございます。

○議長（西山宗弘君）

11番、黒田員米君。

○11番（黒田員米君）

前向きな回答だというふうに理解をするところです。回数券を今回早めに検討するという話だったんですけど、私は定期券のほうが早いんじゃないかと思えますけど。見れば事は済むわけですから、何月何日から何月何日までは使えますよという。そしたら、見るだけなので、ドライバーの方もそんなに負担にはならないと思うので。そのあたり、コストもそんなにかからないと思えますし。ただ、今日も町長は同僚議員の回答の中で、コストがかかってもやらなきゃいけないことはやらなきゃいけないのんじゃという力強い言葉を出されてるわけですので、今の公共交通がなるべく維持できる、あるいは利用できる方法をしっかりと進めていただきたいと思います。

そして、もう一つ、最後に一言だけなんですけども。

○議長（西山宗弘君）

簡潔にお願いします。

○11番（黒田員米君）

はい、簡潔に。これは早くお願いします、ぜひ早く。というのが、利用者は、今日も話に出ましたけども、一年一年利便性が享受できるかできないかの瀬戸際ですので、早い検討と実施をお願いしたいと思います。

以上で質問を終わります。

○議長（西山宗弘君）

これで黒田員米君の一般質問を終わります。

~~~~~

○議長（西山宗弘君）

日程第3、報告第6号、陳情審査報告についてを議題とします。

本陳情については、民生教育常任委員長の報告を求めます。

5番、民生教育常任委員長、丸山節夫君。

○5番（丸山節夫君）

それでは、報告をさせていただきます。

令和7年6月13日、吉備中央町議会議長、西山宗弘殿。民生教育常任委員会委員長、丸山節夫。

陳情審査報告書。本委員会に付託された陳情を審査した結果、下記のとおり決定したので、意見を付し、会議規則第94条の規定により報告いたします。

記といたしまして、審査月日、令和7年6月3日。陳情番号、第2号。件名、岡山県社会保障推進協議会代表からの国民健康保険財政への定率国庫負担の増額を求める国への意見書の提出を求める陳情。審査結果、採択。意見、願意妥当と認める。

補足といたしまして、委員会におきましては、国民健康保険制度を健全に今後運用していくための保険税率の改定に注視し、これに伴いまして全員一致で採択をいたしました。

以上です。

○議長（西山宗弘君）

ただいまの委員長の報告に対して御質疑はございませんか。

〔「なし」の声〕

○議長（西山宗弘君）

質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これより討論を行います。

討論はありませんか。

〔「なし」の声〕

○議長（西山宗弘君）

討論なしと認めます。

採決を行います。

本陳情については委員長報告のとおり決定することに賛成の方は挙手を願います。

[賛成者挙手]

○議長（西山宗弘君）

全員賛成です。したがって、報告第6号、陳情審査報告については委員長の報告のとおり採択とすることに決定しました。

~~~~~

○議長（西山宗弘君）

日程第4、報告第7号、陳情審査報告についてを議題とします。

本陳情については、民生教育常任委員長の報告を求めます。

5番、民生教育常任委員長、丸山節夫君。

○5番（丸山節夫君）

それでは、報告をさせていただきます。

令和7年6月13日、吉備中央町議会議長、西山宗弘殿。民生教育常任委員会委員長、丸山節夫。

陳情審査報告書。本委員会に付託された陳情を審査した結果、下記のとおり決定したので、意見を付し、会議規則第94条の規定により報告します。

記。審査月日、令和7年6月3日。陳情番号、第3号。件名、岡山県教職員組合東備支部代表からの少人数学級の拡充及び教職員定数改善、「カリキュラムオーバーロード」の改善をはかるための、2026年度政府予算等に係る意見書採択の陳情について。審査結果、採択。意見、願意妥当と認める。

なお、少数意見ではありますが、病気や教職員の過密長時間労働に起因する教員不足の現状や働く場の環境改善を必要とする意見が提出されましたことを申し添えまして、審査報告といたします。

以上です。

○議長（西山宗弘君）

ただいまの委員長報告に対して御質疑はございませんか。

[「なし」の声]

○議長（西山宗弘君）

質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これより討論を行います。

討論はありませんか。

〔「なし」の声〕

○議長（西山宗弘君）

討論なしと認めます。

採決を行います。

本陳情については委員長報告のとおり決定することに賛成の方は挙手を願います。

〔賛成者挙手〕

○議長（西山宗弘君）

全員賛成です。したがって、報告第7号、陳情審査報告については委員長の報告のとおり採択とすることに決定しました。

これをもちまして本日の日程は全て終了いたしました。

お諮りします。

明日6月14日から6月16日までの3日間休会としたいと思います。御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声〕

○議長（西山宗弘君）

異議なしと認めます。したがって、明日から6月16日までの3日間休会とすることに決定しました。

本日はこれにて散会いたします。

御苦労さまでした。

午後 1時42分 閉 議